5　観光施設利用の優遇措置、バスの無料利用

平成１３年６月沖縄本島内の主要な観光施設に海外参加者の無料又は割引料金での入園について協力を依頼したところ、９施設が無料、１２施設が割引料金で入園できることになり、沖縄観光を楽しんでいただいた。

また、(社)沖縄県バス協会は、はるばる沖縄を訪れた海外参加者に沖縄を満喫していただこうと路線バスを無料にした。

観光施設利用の優遇措置一覧

1　無料

期間：10月25日～11月15日

施設名	所在地	電話番号	一般料金	海外参加者料金
福州園	那覇市	098-869-5384	300円	無料
識名園	〃	098-855-5936	観覧料 300円 玉陵観覧料 200円	〃 〃
県立博物館	〃	098-884-2243	－	〃
壺屋焼物博物館	〃	098-862-3761	315円	〃
首里城公園	〃	098-886-2020	800円	入場券を配布
旧海軍司令壕	豊見城村	098-950-4055	420円	無料
沖縄県平和祈念資料館	糸満市	098-997-3844	大人 300円　小人 150円	〃
中城城跡公園	中城村	098-935-5719	大人 300円	〃
むら咲むら	読谷村	098-958-1111	500円	〃

2　割引

施設名	所在地	電話番号	一般料金	海外参加者料金
玉泉洞王国村	玉城村	098-949-7421	《フリーパス券》 大人1,600円　小人800円 《玉泉洞王国村券》 大人1,200円　小人600円	《フリーパス券》 大人800円　小人400円 《玉泉洞王国村券》 大人 600円　小人 300円
琉球舞踊館うどい	〃	098-949-7056	大人1,500円　小人600円	大人1,000円　小人550円
知念海洋レジャーセンター	知念村	098-948-3355	《グラスボート乗船料》 1,400円 《コマカ島往復料》 2,500円 《久高島往復料》 2,800円	《グラスボート乗船料》 1,260円 《コマカ島往復料》 2,250円 《久高島往復料》 2,520円
ひめゆりパーク	糸満市	098-997-3111	大人　850円　小人450円	大人　450円　小人220円
東南植物楽園	沖縄市	098-939-2555	大人1,000円　小人500円	大人　800円　小人400円
ビオスの丘	石川市	098-965-3400	《入園》 大人　630円　小人300円 《入園+湖水鑑賞舟》 大人1,000円　小人560円	《入園》 大人　570円　小人270円 《入園+湖水鑑賞舟》 大人　900円　小人500円
琉球村	恩納村	098-965-1234	大人　840円　小人420円 高校・大学生 730円	大人　420円　小人210円 高校・大学生 370円
ナゴパラダイス	名護市	0980-52-6262	550円	300円
やんばる亜熱帯園	〃	0980-53-0007	600円	540円
海中展望塔	〃	0980-52-3379	《海中展望塔》 大人1,000円　中人800円 小人　500円 《グラス底ボート》 大人1,500円　中人1,200円 小人　750円 《セット券》 大人2,000円　中人1,600円 小人1,000円	《海中展望塔》 大人800円　中人640円 小人　400円 《グラス底ボート》 大人1,200円　中人960円 小人　600円 《セット券》 大人1,600円　中人1,280円 小人800円
琉宮城蝶々園	本部町	0980-48-3456	大人　400円 小人(3～15才)　200円	大人　200円 小人(3～15才)　100円
ダチョウらんど	今帰仁村	0980-56-5608	500円	200円

6　出演者団体協力体制

世界のウチナーンチュ大会を全県的事業として位置づけ、関係者の幅広い支援を得ていく観点から、大会に出演する個人、団体に対し、出演料等の低減についてお願いし、快くお引き受けいただいた。

また、ウチナーンチュ交流祭への出演にあたっては、郷土芸能の保存に取り組んでいる団体など、ほとんどの団体が無償での出演を引き受けて下さり、世界のウチナーンチュ大会ならではの全県的な協力体制が布かれた。

7　関連事業

今回の大会では、気運の醸成を図り、海外参加者と県民との活発な相互交流を実現させるという観点から、各種団体が開催する大会関連の事業について後援及び共催を積極的に行い、関係者の幅広い参画を得た。後援・共催を行った事業は以下のとおりである。

第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員会後援・共催事業（実施時期順）

事業の名称	(1)ウチナーンチュ大会記念中国交流祭
趣旨・目的	第3回世界のウチナーンチュ大会のプレイベントとして大会を海外の地・福建省から盛り上げると同時に、今後の福建省と沖縄とのさらなる経済交流、文化交流及び人的交流をより一層促進する。
内　　容	ビジネスマン会議、学生等会議、エイサー大会、ゴルフ大会、視察交流会
日　　時	平成13年5月21日(月)～26日(土)
場　　所	福建・沖縄友好会館、福州国際会議展示センター、福州市内
主　　催	中国福建省沖縄県人会
後　　援	(財)沖縄県産業振興公社福州事務所、WUB中国沖縄会、 第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
協　　賛	(財)沖縄県産業振興公社
結　　果	今回の交流祭は、第3回世界のウチナーンチュ大会開催に向けて、海外の地、福建省からエールを送り、大会のムードを高めると同時に、沖縄県と福建省とのより一層の経済、文化交流の進展を図ったものである。経済交流にあっては、沖縄側からの企業家やWUB中国沖縄会企業等の意見交換ならびに経済情報交換を中心に、市場視察を通して相当の効果が得られたものと考える。学生会議に関しては、中国・沖縄双方の学生による討論会を通して文化や考え方の相違点についてお互いが再認識しえた。 また、学生の中には将来の就職や中国・沖縄間との事業を意識する者もあり、今後の人材育成面で大いに有意義であった。エイサーの披露においては、沖縄からの留学生と福建師範大学生との共演となったが、その際、練習から本番にかけて文化・芸能面で大いにその目的が果たせたことは特筆すべき事項である。また、演技会場が福州市内のイベント(峡科技成果交易会開催会場)会場内であったことから相当の効果が発揮できたと思われる。

事業の名称	(2)ブラジル沖縄国際親善柔道大会
趣旨・目的	①ウチナーンチュアイデンティティの継承を図る ②ブラジル・沖縄相互の文化、スポーツの普及発展に寄与する
内　　容	柔道の試合や合同練習を通じてブラジルの沖縄県系人子弟と沖縄の青少年が親善交流を深め、併せて学校訪問、名所旧跡への案内見学、親戚訪問等各種親善交流を行う。
期　　日	平成13年7月15日(日)　13:30～17:30
場　　所	沖縄県立武道館柔道練成道場
主　　催	沖縄県柔道連盟
共　　催	第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
後　　援	沖縄県体育協会、沖縄県武道連絡協議会、那覇市、具志川市、読谷村、沖縄ブラジル協会、県内マスコミ各社
結　　果	試合の結果は、成年男子リーグ、少年男子リーグでブラジル選手団が勝利した。会場には大勢の人が詰めかけ、力と技が正面からぶつかりあう熱戦に大きな拍手が送られた。 第３回世界のウチナーンチュ大会のプレイベントとして行われたこの国際親善柔道大会を通して相互の親睦を深めるとともに、ブラジル選手団と一緒に来県したビラカロン沖縄学園、読谷村双方のスポーツ文化交流の普及発展に大きな成果があった。

事業の名称	(3)沖縄文化交流訪米使節団
趣旨・目的	米国ワシントン州シアトル市で開催されるシーフェア祭において沖縄文化をアピールし、世界のウチナーンチュ大会への参加を呼びかける。
内　　容	(1)鼓衆「若太陽」による米国シアトル市で行われる「シーフェア」フェスティバルへの参加(「シーフェア祭」主催団体及びワシントン州沖縄県人会の招待による)。 (2)祭への参加のほか、日本総領事館、シアトル市長訪問、シアトル商工会議所等への表敬訪問、デモンストレーション演舞、県人会子弟たちとの交流演舞会を実施。
日　　時	2001年7月28日(訪米期間:7月25日～8月1日)
場　　所	米国ワシントン州シアトル市
主　　催	沖縄文化交流訪米使節団実行委員会
後　　援	沖縄県、沖縄県教育委員会、(社)沖縄県自然保護協会、沖縄県市長会、沖縄県町村会、沖縄県婦人連合会、沖縄県PTA連合会、米国総領事館、在沖米国商工会議所、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	本使節団はパレード参加で特に沿道の観客30万人の注目を集め、３大ネットワークで全米に中継放送された。また、県知事からの親書がワシントン州知事に届けられ、沖縄とワシントン州のつながりを一層深めるきっかけになった。

事業の名称	(4)第1回世界高校生美術展
趣旨・目的	①ウチナーンチュ大会の大きな目的である国際交流を通した創造力豊かな人材育成の積極的な推進を図り、名護市・北部の高校生、若者、市民と世界の高校生との交流を実現させる。 ②将来を担う若手芸術家の育成と国際規模での美術的文化活動を機軸とした高校生の情報ネットワークの形成を図る。
内　　容	世界高校生美術展(名護市民会館等)、高校生文化サミット会議(万国津梁館)、エコ・グリーンツーリズム体験学習、報告書作成
日　　時	平成13年8月1日(水)～8月5日(日)
場　　所	名護市民会館、名桜大学、与論島
主　　催	第1回世界高校生美術展実行委員会 (名護市、名護市教育委員会、北部広域市町村圏事務組合)
共　　催	第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	美術活動やエコ・グリーンツーリズム体験学習等を通して、これまでの活動の輪をさらに広げ、いろいろな地域や国々の高校生と美術交流をすることにより、多くの刺激を受け、美術の創作意欲を高めることができた。

事業の名称	(5)カナダ・沖縄アイスホッケー親善交流会		
趣旨・目的	カナダの国技であるアイスホッケーの交流試合を実施することにより九州・沖縄サミットに引き続き同国との交流の促進を図り、沖縄におけるアイスホッケーの技術向上、底辺拡大と世界のウチナーンチュのきずなを強める機会とする。 また、沖縄の青少年の国際的視野を高める絶好の機会とし、沖縄の基本的なアイデンティティーの継承と21世紀の懸け橋として活躍する人材の育成につなげる。		
内　　容	親善試合、沖縄体験ツアー、懇親会		
日　　時	平成13年8月19日(日)　午前9:30～12:00		
場　　所	スポーツワールド・サザンヒル(南風原町)		
主　　催	カナダ・沖縄アイスホッケー親善交流会実行委員会 (南風原町、沖縄カナダ協会、沖縄タイムス社)		
共　　催	第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員会		
後　　援	沖縄県教育委員会、沖縄県体育協会		
協　　力	スポーツワールド・サザンヒル	競技主管	沖縄県アイスホッケー連盟
結　　果	試合はスピード感にあふれ、体と体がぶつかりあう激しい展開となったが結果的に、カナダチームが沖縄選抜チームを8対0で下した。 会場には選手の親族や一般客ら約500人が観戦し、熱心な声援を送っていた。		

事業の名称	(6)沖縄キューバフィエスタ2001
趣旨・目的	①沖縄キューバフィエスタ２００１を通して世界のウチナーンチュ大会に招聘されるキューバ沖縄県人の友好と沖縄とキューバの交流を図る。 ②ウチナーンチュ大会に招聘されるキューバ沖縄県人会員への資金援助とキューバに物資を送るための資金の造成。
内　　容	①キューバ物産展 ②ミュージックコンサート(ﾆｳﾙｶとそのグループ、平ゆき、カチンバ1551)
日　　時	平成13年8月25日(土) 物産展開場～午後４時、コンサート開演～午後６時
場　　所	佐敷町文化センター　シュガーホール
主　　催	沖縄キューバ友好協会
共　　催	第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
後　　援	キューバ大使館、ＩＣＡＰ、琉球放送、沖縄テレビ、沖縄タイムス、琉球新報社、ＮＨＫ
結　　果	会場500名は満員になり、キューバへの興味、交流がより深まり、世界のウチナーンチュ大会への動員へつながった。

事業の名称	(7)沖縄芸能交流団　北米親善公演
趣旨・目的	①現地(シアトル)で活躍する県系人に沖縄の芸能文化風俗歴史等を紹介し沖縄の「守礼の心、平和の心」を強く発信する。 ②サミット後の次代を担う若者たちの国際交流、故郷に誇りを持つ人材育成を目指す。 ③活力あふれる「万国津梁の夢」を強くアピールする。 ④世界のウチナーンチュ大会への参加、呼びかけも併せて行う。
内　　容	沖縄伝統芸能の公演及び沖縄の文化、歴史等のレクチャー
日　　時	平成13年9月10日(月)～18日(火)まで
場　　所	米国ワシントン州シアトル、カリフォルニア州ロサンゼルス
主　　催	沖縄芸能交流団
後　　援	シアトル沖縄県人会、北米沖縄県人会、国際交流基金、 第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	今までと違う形態の公演で、県人会はもちろん地元の高校生や一般の方にも沖縄芸能の素晴らしさを披露し、沖縄文化を強くアピールできた。

事業の名称	(8)西原篤一友達遊び秋遊び特別公演
趣旨・目的 内　　容	西原篤一芸能歴４０周年を記念して、収益金を第３回世界のウチナーンチュ大会へ寄附することを目的に、琉球民謡、琉球舞踊、沖縄芝居、エイサー等の公演を実施する。
日　　時	平成13年10月15日(月)　18:00～
場　　所	那覇市民会館大ホール
主　　催	西原篤一友達遊び秋遊び特別公演実行委員会
共　　催	第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
後　　援	沖縄ブラジル協会、県内マスコミ各社
結　　果	ブラジル沖縄県人会、ブラジルイッペー友の会のみなさんからの大きな支援の下、130名の出演者や1000名の入場者、講演前日までの広報等でウチナーンチュ大会を盛り上げた。

事業の名称	(9)第３回世界のシマヌチュ大会 シンポジウム 「移民発祥の地　金武町で考える国際ネットワーク」
趣旨・目的 内　　容	移民発祥の地・金武町において、各国間の積極的な交流を図るための国際ネットワークについて考え、より実り多い国際交流を促進する。
日　　時	平成13年10月30日(火)　午後6時～9時
場　　所	金武町立中央公民館
主　　催	金武町
後　　援	北部市町村会、琉球新報社、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	「移民発祥の地　金武町で考える国際ネットワーク」第2回大会を実施したときと同様に、コーディネーター、パネリスト、海外移住者、県内及び町内在住者がそれぞれの立場において、多くの意見を交換し、シンポジウムとして所期の目的を達成した。

事業の名称	(10)第3回世界のウチナーンチュ大会記念WUB国際ゴルフ大会
趣旨・目的	第3回世界のウチナーンチュ大会のために来県した世界のウチナーンチュゴルファーが一堂に会し、ゴルフプレーを通じて、友情を培い、大会に花を添えるものとする。
内　　容	親善ゴルフ大会
日　　時	平成13年11月2日(金)
場　　所	ブセナカントリークラブ
主　　催	WUB沖縄
結　　果	参加者数も定員いっぱい集まり、参加国も7か国を数え、国際大会の名称を保つこともでき、実施目的を十分に達成することができた。

事業の名称	(11)世界のウチナーンチュ大会歓迎グラウンドゴルフ交歓大会
趣旨・目的	世界のウチナーンチュ大会に参加する、各国在住のウチナーンチュと生涯スポーツであるグラウンドゴルフを通し相互の親睦を図り楽しむ。 スポーツの意識を高揚し体力づくり運動を推進、健康で明るい日常生活の活性化に寄与する事を目的に歓迎グラウンドゴルフ交歓大会を開催する。
内　　容	グラウンドゴルフ大会
日　　時	平成13年11月3日(土)　09:00～16:00
場　　所	奥武山運動公園多目的広場
主　　催	那覇市グラウンドゴルフ協会
共　　催	那覇市、那覇市教育委員会、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	海外の県系人を交えた約３８０名の参加があり、シルバースポーツとしてのグラウンドゴルフの楽しさが認識された。また、グラウンドゴルフスティックを海外参加者に贈呈した。

事業の名称	(12)第3回世界のウチナーンチュ大会記念2001　沖縄&ペルーシニアサッカー交流大会
趣旨・目的	第3回世界のウチナーンチュ大会記念の関連イベントとしてペルーの中高年サッカー愛好者と沖縄県民との親善交流を深める。
内　　容	サッカー大会
日　　時	平成13年11月3日(土)　09:00～15:30 ～11月4日(日)　11:00～14:00
場　　所	沖縄県総合運動公園 サッカー場
主　　催	沖縄県シニアサッカー連盟
後　　援	第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
結　　果	ペルー本国からの10名と県内在住の2、3世を含む合同チームと県内サッカークラブ(10)との親善試合で交流を深めた。ペルークラブの優勝で大会は盛り上がり、新聞・テレビなどでも報道され沖縄県のサッカー文化の向上に貢献することができた。なお、結果について写真を含めホームページで公開した。なお、ペルーからの参加者は参加料無料。

事業の名称	(13)ヨーロッパ ニュー シンフォニー オーケストラ コンサート
趣旨・目的	①沖縄県出身の指揮者がヨーロッパで活躍していることを県民に周知させる。 ②音楽を通じた沖縄県とベルギーとの交流の展開。 ③将来音楽家をめざす県内の青少年へ刺激を与える。 ④ウチナーンチュ大会参加者にも鑑賞してもらう。
内　　容	ヨーロッパで活躍する県出身の儀武寛氏(名護市出身)を指揮者に迎えて、ドイツ、ベルギーと沖縄の交響楽団との交流演奏会を実施する
日　　時	2001年11月4日(日)～11月10日(土)
場　　所	那覇市民会館、沖縄市民会館、名護市民会館、マティダ市民劇場(平良市)、沖縄平和祈念堂
主　　催	沖縄ベルギー協会、「ワールド・コンサート」実行委員会
共　　催	那覇市、沖縄市、名護市教育委員会、平良市
後　　援	沖縄タイムス、琉球新報、NHK沖縄、沖縄テレビ、琉球放送、琉球朝日放送、FM沖縄、ラジオ沖縄、那覇市文化協会、沖縄市文化協会
協　　力	沖縄交響楽団

事業の名称	(14)劇団「翼」公演《うむい》
趣旨・目的 内　　容	一言では語り尽くせぬほど、幾多の苦難と絶望を乗り越えて築き上げられた先駆者たちの土台の上に、今、海外にいる135万とも言われるウチナーンチュの生活律があるといってもよいのではないでしょうか。 こんなに小さな沖縄から遠隔の地へ希望と夢を求めて雄飛していった気骨あふれる勇者たちの軌跡と歴史を私たちは忘れてはならないと思います。まだ帰らない息子達を空しく待ちわびて年老いた父と母。「いつかきっと故郷の土を踏みたい」と願いつつも、自らも老いてしまった人々。 様々な人間模様を縮図として劇を創ってみました。深遠な移民の歴史を1時間のドラマに集約することは不可能ですが、第3回世界のウチナーンチュ大会に因んで多くの方々に異文化の中で脈々と貫かれる「古き良きウチナーンチュの心」を知っていただきたいと思うのと同時に、この劇を壮絶な一生を他国で遂げた一世達に捧げたいと思う次第であります。
日時・場所	平成13年11月5日(月)　嘉手納文化センター
主　　催	演劇集団「翼」
後　　援	沖縄タイムス社、琉球新報社、ＮＨＫ沖縄放送局、ラジオ沖縄、琉球放送、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送
結　　果	宣伝不足で入場者数は少なかったが、劇を見た方からは一様に評価をいただきました。ボリビアはじめ南米移民体験者の方はこの劇を移民者の縮図として受け取ってくださり、この劇を是非とも南米公演に、と言われる方々が増えております。

事業の名称	(15)第11回「琉歌大賞」
趣旨・目的	伝説的女流歌人「恩納ナビー」は、恩納村の美しい自然の中「波の声」「風の声」を感じ、自由奔放かつ大胆な歌を数多く残した。琉歌大賞は沖縄の大切な文化と歌心を育てる恵まれた自然をいつまでも伝え残すことを目的に県内外より広く琉歌を募り、表彰を行う。
内　　容	琉歌コンテスト
日　　時	第11回「琉歌大賞」表彰式　平成13年11月18日(日)　午後2時～
場　　所	恩納村コミュニティーセンター
主　　催	琉歌大賞実行委員会
共　　催	恩納村、恩納村商工会、琉球新報社
結　　果	毎回応募数が増加し続け、これまでの応募総数が1万首を超えた。 方言にこだわらない児童生徒の部も広がりつつあり、地域文化に対する関心が高まっている。又、毎年海外に住むウチナーンチュからもたくさん御応募がある。県人会を中心に郷土の文化と言葉を大切に伝承されており、この事業を通して郷土との繋がりを感じ、「琉歌」づくりの励みになっているとの御意見も多く頂いた。

(16)那覇国際高等学校ウチナー民間大使招聘事業
「世界のウチナーンチュに学ぶ交流会」

那覇市にある県立那覇国際高等学校では、ウチナー民間大使の方々を世界のウチナーンチュ大会の開催にあわせて招聘し、「世界のウチナーンチュに学ぶ交流会」を開催した。

開会セレモニーの後、ウチナー民間大使のみなさんは各教室に分かれ、それぞれの体験に基づきながら、海外交流や沖縄の文化などについて語り、海外へのチャレンジを生徒達にアピールした。また、視聴覚教室において、スイス民間大使の玉城英彦さん、ザンビア民間大使の高良初子さんによる特別講演が行われた。

ア　趣旨「ウチナーンチュ・アイデンティティー」の若い世代への継承

国際化の進展に伴って外国語教育・国際理解教育の果たす役割は一段と重要になっている。特に、今後は自分の意見や意思を適切に表現出来る実践的コミュニケーション能力や異文化を尊重する態度を育成していく必要が叫ばれている。

また本県は、新しい全国総合開発計画の中で「太平洋・平和の交流拠点(パシフィック・クロスロード)と位置づけられ、アジア・太平洋における人・物・情報の結節点となる広域国際交流圏の形成を図るとされている。

したがって、これからの国際社会においては、本県の地理的、人的優位性を活かし、国際的な貢献拠点を実現するうえで必要な高等学校段階における人材育成が望まれる。

本校の校歌の歌詞に「津梁築く気宇をもて国を越えて羽ばたかん」と、世界に飛翔出来る創造的な人材の育成が詠われている。

今回の世界のウチナーンチュ大会は、まさに世界各地の地域社会にとけ込んで、政治、経済、文化等様々な方面で活躍している県系人から学ぶよい機会と捉え、学校行事に位置づけるものである。

イ　実施運営

(ア) 実施期日：
平和13年11月5日(月)　13:25～16:20

(イ) 実施会場：
那覇国際高等学校「エントランス・ホール」「視聴覚教室」「HR教室」

(ウ) 実施主体：
那覇国際高等学校「国際交流実行委員会」、教務部

協力：第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会、県立博物館

(エ) イベント分野目標：
教育・学術分野(ウチナーンチュアイデンティティーの若い世代への継承」)

(オ) 参加者：
ウチナー民間大使３０名

(カ) 内　容

a　パートⅠ

◆開会セレモニー

◆体験講話(「各HR教室：２８クラス」にて「海外ウチナーンチュ塾」)

(ウチナー民間大使)

・南米(１０)：
アルゼンチン(２)、ブラジル(１)、ペルー(５)、ベネズエラ(１)、コロンビア(１)

・北米(９)：
米国(8)、カナダ(1)

・欧州(５)：
イギリス(２)、スウェーデン(１)、ドイツ(１)、イタリア(１)

・アジア(４)：
フイリピン(１)、中国(２)、シンガポール(１)

計２８名

b　パートⅡ

◆特別講演

・テーマ

「これからの国際化社会で、活躍を期待する若者へのメッセージ」

「自分史を通してみる国際社会」

講師：

・玉城英彦(スイス民間大使、１世、大学教授、前「WHO」勤務)

・高良初子(ザンビア民間大使、１世、婦人アカデミー理事長)

(17)沖縄県公文書館世界のウチナーンチュ大会記念企画展

沖縄県公文書館では、世界のウチナーンチュ大会に合わせて「平成１３年度沖縄県公文書館世界のウチナーンチュ大会記念企画展『写真にみる近代の沖縄』」を実施し、海外の県系人達が沖縄の歴史に関心を深めてもらう機会を提供した。

ア　展示会名
平成１３年度沖縄県公文書館世界のウチナーンチュ大会記念企画展

イ　展示会タイトル
写真にみる近代の沖縄

ウ　趣　旨
（ア）沖縄関係写真資料を、広く県民に公開することによって歴史資料への認識を高める。
（イ）世界のウチナーンチュ大会を記念して、諸外国より訪れる世界各地のウチナーンチュ（県系人）及び県民の方々が近代沖縄の歴史的出来事、その時代に生きた人々の様子や風景、風物の写真資料を見ることにより、沖縄の歴史に関心を深めてもらう機会とする。
（ウ）企画展に訪れた来館者より展示写真に写された出来事、人物、風景等に関しての情報提供を募る機会とする。

エ　主　催
沖縄県公文書館

オ　会　期
展示期間：平成13年10月19日（金）～
平成13年11月25日（日）

カ　会場
沖縄県公文書館閲覧展示棟展示室

8　ボランティア活動

(1)総括

第３回世界のウチナーンチュ大会は参加型の大会を目指していることから、ボランティアとしてより多くの県民に参加する機会を提供し、市民レベルの国際交流を促進することを目的に募集を行った。

今大会の第１の特徴は、過去大会に比べて応募者数が多かったことである。その理由として、①３回目を迎え大会の認知度が高まっていること、②インターネットを通じた募集という新しい手段を取り入れたこと、③九州・沖縄サミットの経験等により県民の国際性がより豊になったこと、④ボランティアに対する県民の関心が年々高まっていることなどが挙げられる。

第２に通訳ボランティアに関しては、大会期間中及び大会期間前後に空港と主要なホテルにも配置し、参加者への情報提供を行った。

今回大会では、簡易通訳を務める通訳ボランティア、イベント会場にて支援する一般ボランティア及び学校や県内各種団体等による団体ボランティアの方々の協力により円滑な大会の運営が行えたこと、そして何よりも温かく参加者を迎える心のこもった対応が、大会の成功に重要な役割を果たした。

(2)ボランティアへの対応

a ボランティアの参加は原則無償だが、交通費及び業務時間帯に応じて、昼食、夕食(弁当)を支給した。

b ボランティア全員にウィンドブレーカーを着用してもらい、一目でボランティアとわかるよう参加者への便宜を図った。

c 特に通訳ボランティアには、言語別(英・西・葡)に赤・青・緑の帽子をかぶってもらった。

d 学校単位で参加した団体ボランティアの生徒達へは、大会ﾛｺﾞﾏｰｸ入りのTシャツを配布した。

(3)ボランティア募集の経過

・7月10日(火)～8月31日(金)
新聞、テレビ、ラジオ、インターネットを通じての募集
→募集人数:通訳ボランティア　約３００名
一般ボランティア　約２５０名

・10月13日(土)　於:サザンプラザ海邦
第１回大会ボランティア説明会
→大会概要、ボランティア業務及び配置計画についての説明を行った。
出席者数:約200名

・10月27日(土)　於:沖縄コンベンションセンター
第２回大会ボランティア説明会
→開会式及び閉会式の担当者を対象に現場での説明を行った。

(4)ボランティアの参加状況

ア　個人一般ボランティア

参加人数:計７４名

業務内容:各イベントにおける補助業務
(受付、会場整理、湯茶接待等)

イ　個人通訳ボランティア

参加人数:計２１２名
＜内訳＞
・英　語　　１４０名
・スペイン語　　５１名
・ポルトガル語　２１名

業務内容:英語、スペイン語、ポルトガル語の通訳
(受付、会場の案内、大会情報の提供)

ウ　団体通訳ボランティア　　計４団体

・沖縄県ボランティア通訳友の会(10名)
・名桜大学(３名)
・やんばる語学ボランティア通訳友の会(12名)
・沖縄ブラジル友の会(６名)

エ　団体一般ボランティア　　計９団体

(ア) 呈茶
・(社)茶道裏千家淡交会沖縄支部(25名)
・ぶくぶく茶あけしのの会(20名)
・日本礼道小笠原流煎茶(20名)
・沖縄伝統ブクブクー茶保存会(20名)

(イ) イベント補助等
・久保田照子チャームスクール(15名)
＊ＶＩＰ湯茶接待
・国際ツーリズム専門学校(70名)
＊前夜祭パレード
・県立宜野湾高校(43名)
＊開会式
・市立真志喜中学校(270名)
＊ウチナーンチュ交流祭、開会式
・沖縄中央学園(８名)
＊福祉ボランティア

9　各種団体の取り組み

	各国際交流団体	イベント名称	実施日	場所	主席者	イベントの内容	招待者／参加者の声
1	南風原文化センター	第40回企画展 世界の南風原人展	10.27（土）～ 11.11（日）	南風原文化センター	招待：40名 地元：60名	・南風原人展：現在までの南風原から各国への移民者の氏名、写真等を展示。	－
2	沖縄ボリビア協会	ボリビアウチナーンチュ歓迎会	11.3（土）	沖縄青年会館	招待：30名 地元：110名	・グランドゴルフセット贈呈 ・歓迎夕食会 ・知事との記念写真の贈呈 ・前夜祭パレード（約50名参加） ・ワールドバザール出店	・知事をはじめ、代議士、浦添市長の出席で激励を受け、感動した。知事との記念写真は、ボリビア協会の粋な計らいで嬉しかった。
3	沖縄フィリピン協会	フィリピン沖縄県人会の皆さんと沖縄フィリピン協会の交流会	11.3（土）	沖縄不二ホテル	地元、会員を中心に約50名	・記念品贈呈及び交流会	・知人、友人など久しぶりに会えて仲良く交流ができとても良かったとの声が多数あった。
4	沖縄ハワイ協会	ハワイのウチナーンチュ歓迎会＆佐喜真彰氏叙勲祝賀会	11.6（火）	那覇セントラルホテル	約170名	・歓迎パーティー ・グランドゴルフ4セット贈呈 ・勲四等の叙勲を受けた佐喜真彰氏に1,000ドルを贈呈	・フラダンス、琉舞等があって和やかで楽しいパーティーであった。
5	沖縄カナダ協会	カナダ・沖縄 アイスホッケー親善交流会	8.12（日）～22（水） （11日間）	スポーツワールド サザンヒル	招待：25名 （選手及び保護者）	・県内合同チーム、選抜チームとの親善試合 ・ウェルカムパーティー ・さよならパーティー ・体験学習ツアー	・生まれて初めて来県した4世にとって、自分自身がウチナーンチュカナダ人の認識ができた。 今度は県費留学生で来たい。最後に本当に沖縄に来て大変良かった。
		ふれあい沖縄観光ツアー	10.29（月）～ 30（火）	南部コース、 中・北部コース	27名	沖縄食文化、伝統舞踊、各観光地、世界遺産等の見学	・感激の一言 ・今回ウチナーンチュ大会に参加できなかった県人会の皆さんにピーアールしたい。
		カナダ物産展 （ワールドバザール）	11.1（木）～4（日）	多目的広場	沖縄カナダ協会、他	・企業、教育、物産の紹介 ・カナダ産飲料品、おかし類、衣料品、民芸品の特売コーナー	・カナダ産商品の知名度が弱かったが、逆に県民の関心が高いので驚いた。今年5月の那覇ハーリー祭にイベント参加予定。
6	沖縄キューバ友好協会	「沖縄キューバフェスタ2001」	8.25（土）	佐敷町シュガーホール	約400名	・キューバミュージシャン"ニウルカとそのグループ"によるコンサート ・平ゆき、カチンバ1551のコンサート ・キューバ物産展	・はじめてのキューバ参加でパレードの人数は少なかったが、沿道からの声援が大きく感動した。 ・キューバとの関わりが広がるようこれからも沖縄に来たい。
		キューバ県人会との交流会	10.31（水）	浦添国際センター	約100名	・友好協会と在キューバ沖縄県人会との交流会、琉舞、島唄、あいさつなど	－
7	沖縄ペルー協会	ウチナーンチュ大会 来沖者歓迎会	①10.30（火） ②11.7（水）	①ホテルサンパレス ②京都観光ホテル	①80名（主に役員・幹事） ②120名（一般）	・歓迎会（金一封贈呈）	・「来て良かった」の一言、親戚、友人、知人の他に新しい出会いがあったこと等。
8	沖縄ブラジル協会	ブラジル熱烈歓迎パーティー	10.30（火）	民謡クラブ「うるま島」	招待：20名 地元：30名	・歓迎のあいさつ、余興等 ・ブラジルと沖縄県人会との意見交換	・ウチナーンチュ大会のおかげで沖縄に来ることができ喜んでいる。
9	国際ボランティア相談室	－	－	－	－	－	・ホノルル市より来沖されたサキマ・アキラ氏夫妻とはグループ一行と話し合う機会を持ち深甚なる感謝の意が表された。
10	（社）ガールスカウト日本連盟沖縄県支部	・パレード参加 ・開会式における旗手	①10.31（水） ②11.1（木）	①国際通り ②沖縄コンベンションセンター　展示場	①31名 ②18名	・パレード（横断幕・プラカード持ち） ・開会式における各国旗の旗手	・大切な思い出となった。 ・各国の人々が旗の下に一つになり大きな和を感じた。

10　大会後の事務処理

大会終了後は下記のとおり業務を行った。

（１）大会記録の編集・作成

ア　大会記録ＶＴＲの編集
イ　大会報告書の作成
ウ　大会記録写真集の編集

（２）大会記念表彰現地伝達式の実施

大会に参加できなかった被表彰者１９名に対し、在住国において表彰状の伝達式を行うため、北米及び南米に実行委員会副会長、事務局職員を派遣した。

ア　北米２地域（ロサンゼルス、ハワイ）

（ア）派遣期間：平成１３年３月２日～６日
（イ）派遣者：副会長（（財）国際交流・人材育成財団理事長、同財団職員１名、事務局職員１名）
（ウ）伝達対象者：４名

イ　南米４カ国（ペルー、ボリビア、ブラジル、アルゼンチン）

（ア）派遣期間：平成13年2月9日～22日
（イ）派遣者：事務局職員２名）
（ウ）伝達対象者：１５名

（３）実行委員会解散総会に向けての準備

ア　事業報告・収支決算書等の作成
イ　寄付者等への感謝状作成
ウ　文書の整理・保存・引継

Ⅶ　大会を振り返って

大会に参加して

ハワイ沖縄連合会
会長　ジェームズ・Y・伊波

ハワイ沖縄連合会を代表いたしまして、海外のウチナーンチュのために、第３回世界のウチナーンチュ大会を開催してくださった沖縄県に対して心から御礼申し上げます。ハワイからの800人を超える参加者は、大会期間中に示された心からの歓迎や温かいもてなしに感動し深く感謝しております。

振り返ってみますと、2001年10月31日から11月4日まで開かれた大会期間中に催されたイベントは心に訴える忘れられないものであり、楽しくも文化的な意義がありました。とりわけ、ハワイから出席した様々な世代を引きつけた四つのイベントを下に挙げたいと思います。

1. 国際通りでの前夜祭パレードは世界中からの4000名の参加者が集って行われ、見応えある素晴らしいものでした。このパレードはウチナーンチュの一致や調和、誇りを示す心温まるイベントとなりました。
2. 開会式は宜野湾市のコンベンションセンター展示場で行われましたが、よく組織され、感動的でした。アトラクションや参加国・地域紹介、大会記念表彰が特に際だっていました。このよく組織された開会式は大会の成功を予感させるものでした。
3. 各市町村主催の「ウェルカムホームパーティー」も素晴らしく、良い思い出となっています。それによって、県内だけでなく海外の友人や親族と共に集いあうことができました。また、沖縄における私たちの文化的ルーツへの理解を深める上でも貴重な経験でした。
4. 閉会式では多くの才能あふれるパフォーマンスがありました。琉球交響楽団によるオーケストラと三線は沖縄でしか聞くことのできない素晴らしい音楽です。喜納昌吉＆チャンプルーズによって力強く花が歌われた時に聴衆は釘付けになりました。多くの三世や四世は、ステージの上で彼らとフラダンスを踊らずにはいられませんでした。聴衆からの自発的な唱和、そして幾千もの参加者による喜びあふれるカチャーシーは第３回世界のウチナーンチュ大会が素晴らしく運営され成功裏に行われたことへの心からの感謝を示すものでした。

ハワイ沖縄連合会は大会ガイドブックに記されていた開催趣旨及び開催方針を支持いたします。そして、大会の趣旨・方針を支援するための活動プログラムを全面的にサポートします。ハワイからの参加者にとって、大会は自らのルーツがある故郷に帰ってくる特別な機会となります。親族や親戚、友人無しではハワイにおける成功を達成することはできませんでした。大会により彼らとの絆を再び強めることができます。私たちの成功は多くの意味で、心を共にする沖縄の精神「結の心」に因るところが大きいと言えます。

世界のウチナーンチュ大会は、世界中にあるウチナーンチュ県人会が下記に挙げられる原則に則り、国際的なウチナーンチュ連合会を発展させていくために共に働くことを誓う特別な機会となっています。

1. 若いウチナーンチュの世代にウチナーンチュの心を活かし永続させることを教え奨励する。
2. 世界中の人々にウチナーンチュの心を伝え育てる。
3. 沖縄の文化及び芸術の保護や恒久的な保存、プロモーション活動。
4. 若い世代を沖縄に送り、自分自身のルーツや親族、先祖、文化について体験させる。

このようなネットワークを構築し、国際化する社会で私たち全てをウチナーンチュとさせているものや相互の発展に貢献するような価値観を世界中に伝えていきましょう。

Mahalo and Aloha!

（英語から翻訳）

待ち遠しい次回大会

ペルー沖縄県人会
会長　池宮城・アウグスト・ヒデカズ

第３回世界のウチナーンチュ大会のおかげで世界のウチナーンチュの仲間はいつも心の中にはふるさと沖縄の先祖の温かい気持ちを守ることや第1回大会・２回大会・３回大会で親戚や学校の友達・幼年期の友達などに会えるということをはっきり示しました。

多くの参加者は自分の国に帰国してから２００５年・２００６年ごろにまた第4回世界のウチナーンチュ大会を祝う気持ちがあります。日付の決まりを待っています。

ペルーの代表者たちはいい気持ちで帰国しました。今回の大会は前の大会よりペルーの参加者がよかったと思います。旅行の準備や沖縄県人会の中にあるいろんな委員会の仕事がよかったので、リーダーや参加者などからサポートをいただいて一つの気持ちで頑張っていてペルーの代表者としても役割もできました。

沖縄県平和創造の森公園で植樹祭にも参加させていただいて、稲嶺惠一沖縄県知事・山里朝盛糸満市長と一緒にスピーチをする機会もあって光栄でした。

同時にパネリストとして海外・国内県人会長会議・ウチナー民間大使会議に参加させていただきました。会議の結果は世界のウチナーンチュがお互いにもっと理解できるためにインターネット・ネットワークを広げて強化することでした。

最後に委員会長・民間大使の代表としてウチナーンチュ大会に参加させていただいて稲嶺惠一知事をはじめ、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員のみなさまにいろいろお世話になっており、心から感謝申し上げます。

また第４回世界のウチナーンチュ大会でお会いすることを希望しています。

― 世界のウチナーンチュ大会海外大会の実現を ―

WUBインターナショナル
会長　呉屋　守將

ＷＵＢの誕生は、過去のウチナーンチュ大会で開催された経済フォーラムで討議の具体的成果とも言えるものである。第１回大会ではウチナーンチュビジネスマンのネットワーク形成の必要性が語られ、第２回大会後に具体的なネットワーク組織としてＷＵＢの前身であるＨＵＢがハワイで誕生した経緯がある。

１９９５年にハワイで誕生したわずか一つの組織は今回の第３回大会期間中には、１５カ国１９支部会員数４５０名に至るという急成長を遂げることができた。

また、ＷＵＢは今大会において、公式行事であるワールドビジネスフェアを主管するとともに、５つの関連行事を主催するまでに発展することができた。

今大会を通して、県人の中には「これまでのような４～５年置きの大会では間隔が長すぎる。」とか「海外でも大会を・・・」と言う意見が出ており、「これまでのように沖縄で行なう大会を本大会とし、本大会と本大会の間に『海外大会』を開催したい。」と言う声が高まっている。

ＷＵＢはその『海外大会』の実現のため一肌も二肌も脱ぐ覚悟があり、実現の暁には県人会や関係組織と連携し、世界のＷＵＢをあげてその運営に取り組む所存である。それがＷＵＢを誕生させたウチナーンチュ大会と海外でご苦労をされた先人達への恩返になればと思うから・・・。

今大会の特色と課題

第3回世界のウチナーンチュ大会
実行委員会事務局長　太田守胤

第3回大会は、米同時多発テロ事件後の国際情勢の厳しい中にあって、海外旅行、航空旅客の激減という未曾有の事態の中で開催されたにもかかわらず、海外からの参加者が前回大会を上回り大成功を収めた。

特に、沖縄は米軍基地が集中していることから観光客の予約キャンセルが相次ぐといういわゆる風評被害を受けているさなかであったため、県民に明るい希望を与える大会ともなった。

また、海外から参加した人たちにとっても、世界に平和を発信するという特別な思い入れのある大会となった。

特筆すべきことは、参加者の接遇やイベントの補助など多彩なボランティアの活躍が大会成功の大きな原動力となったことである。この分野は今後ますます重要な役割を担うことが考えられる。

これまで開催された２回の大会と比べて今大会の特色は何だったか。また、次回に向けての課題と考えられることを列挙しておきたい。

(1) 第3回大会の特色

ア　若い世代に焦点をあてたこと

ウチナーネットワーク継承と拡大発展の基礎をなす若い世代に焦点をあてたプログラムを実施した。

主要なものとしては、プレイベントとして今回初めて実施した「ジュニアスタディーツアー」をはじめ、「世界のウチナーンチュ 歴史と未来展」、留学生や研修生を含めた「ワールド学生会議 in OKINAWA」がある。

特に、ジュニアスタディーツアーは、参加者はもとより海外県人会等の評価も高い。なお、海外県人会からは、若手のリーダー層を対象としたプログラムを要望する声もある。いずれも県系人社会の将来を託す世代への期待を表していると思う。

イ　ビジネスネットワークの発展を目指したこと

ワールドワイド ウチナーンチュ ビジネス アソシエーション(WUB)を中心として世界に広がるビジネスマンたちのネットワークの強化とビジネス交流を図るため、初めての「ワールドビジネスフェア」を実施した。IT革命が進む中で人的なネットワークを活用したビジネスの展開に向けて一定の成果を上げることが出来た。

フェアーの内容については、初めてということで試行錯誤もあったが、関係者の努力と協力で開催にこぎ着け成功させることが出来た。今回の取り組みを踏まえ、次回は一層充実したものにすることが期待される。

ウ　自ら出演参加し楽しく交流できるプログラムを考えたこと

海外の人たちはもとより、県民のみなさんが楽しく出演参加して交流する。あるいは普段は観る機会の少ない沖縄の民俗芸能をはじめ、大勢のみなさんが一緒に鑑賞し交流できる場、そして家族連れで楽しめるイベントとして「ウチナーンチュ交流祭」「ワールドバザール」が4日間を通して実施された。

県下の旗頭が初めて一堂に会し勇姿を競った第１回旗頭大会をはじめ、広場ステージに地元ミュージシャンが集中的に出演したこともあり好評だった。

このような参加・交流型の催しは、今後は児童生徒や各種団体など各界各層の参加を促すことによって、もっと魅力あるプログラムとして成長するのではないだろうか。

今回は、イベントが集中する沖縄コンベンションセンター周辺に約４,０００台の駐車場を確保できたが、未利用の埋立地があったことが幸いしたものであり、今後は利便性の確保が大きなポイントとなろう。

エ　協賛イベントや自主企画事業の参加が増えたこと

今大会の特徴の一つとして、本大会に多くの人の参加を促す観点から、広がりを持たせる必要があるとして、自主的な企画イベント等の参加促進を大会の基本方針としてきた。大会も３回目を迎えて、参加する側にも機運が盛り上がってきており、この種の企画参加が増える傾向にあることはたいへん喜ばしいことである。具体的には、

７月から８月にかけて

ブラジルから青少年柔道親善交流団（沖縄県柔道連盟・沖縄ブラジル協会受入）、

カナダからアイスホッケー交流団（南風原町・沖縄カナダ協会・沖縄タイムス受入）、

世界高校生美術展（名護市・名護市教育委員会・北部広域圏事務組合受入）、

１１月には、

ペルーからシニアサッカー交流団（沖縄県シニアサッカー連盟受入）、

グランドゴルフ交流会（那覇市グラウンドゴルフ協会主催）、

交響楽団演奏会（儀部寛指揮　沖縄県ベルギー協会主催）

など大会を記念するイベントが実施された。

ユニークな取り組みとしては、那覇国際高校が企画した「ウチナー民間大使招聘交流事業」である。県が認証している海外のウチナー民間大使３０名を学校に招待して、生徒たちとの交流をカリキュラムの一環として実施したことである。

さて、今回のこのようなすそ野の広がりは、ウチナーンチュ大会のイベントのあり方に新しい課題をなげかけているといえる。

当初の事業計画の段階でこのような主体的な事業を助成するメニュー、例えば企画公募から定額（２０万円、５０万円、１００万円）助成までの実施要領を定めることも考えてよいかもしれない。

(2) 次回大会への課題

第１回大会と比べると、県系人だけではない大会参加者の層の広がってきていること。ウチナーンチュということにこだわりすぎることに疑問を呈する人もあることから、これらの人々をすべて包み込むことが求められているように思う。

大会の名称について疑問を投げかける新聞投書もあった。

事業内容については、実行委員会が主体的に取り組むべきものを厳選し、他はイベント内容にふさわしい実施主体に任せる手法も検討する必要があるように思う。これは実行委員会の事務局体制とも深く関わってくるからである。

また、大会参加者も次回からは、３世、４世と若返りが進み、大会の運営には外国語への対応が大きな課題になると考えられる。

ウチナーンチュ大会は、第1回大会から１０年が経過しており、大会のコンセプトや事業内容、運営のあり方などについて、整理すべき時期にきていると思う。海外も含めた有識者による検討委員会を設け、議論を深めてはどうだろうか。

Ⅷ　資料篇

1　事前調査によるアンケート資料

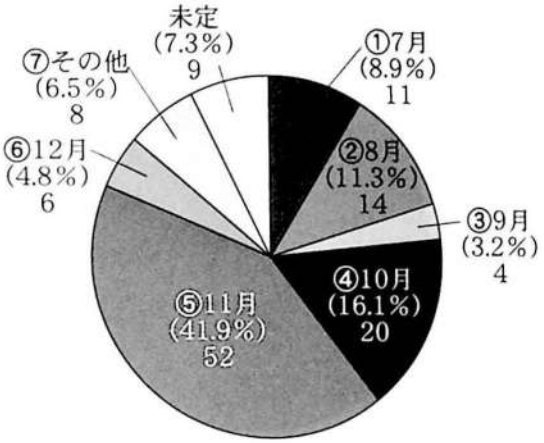
第3回世界のウチナーンチュ大会
アンケート結果(全体)
アンケート実施:平成11年11月

	全体	沖縄県側 (市町村・協議会等)	海外参加者側 (県人会・民間大使)
配布数	306	166	140
回答数	113	46	67
回答率	36.9%	27.7%	47.8%

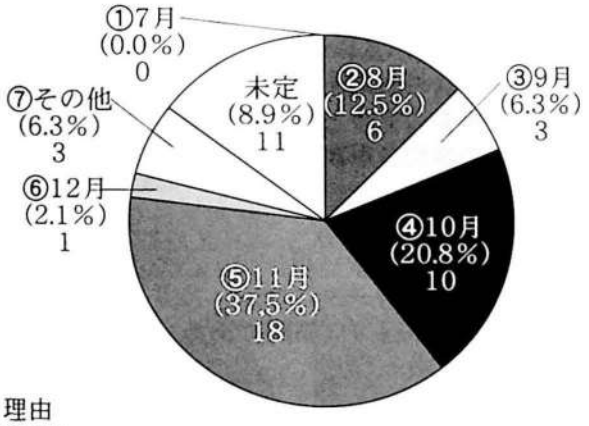
開催時期・期間について

◆開催時期について（参考　第1回大会：8月　第2回大会：11月）

【全体】



【市町村・協議会等】



理由

②8月
・議会を除く月(1)　・市町村祭りを除く月(1)
・市町村祭りとのタイアップ(2)
・夏休み・子供の参加可能(2)
・市町村主催のイベントが少ない(3)

③9月
・市町村主催のイベントが少ない(1)
・気候が良い(1)

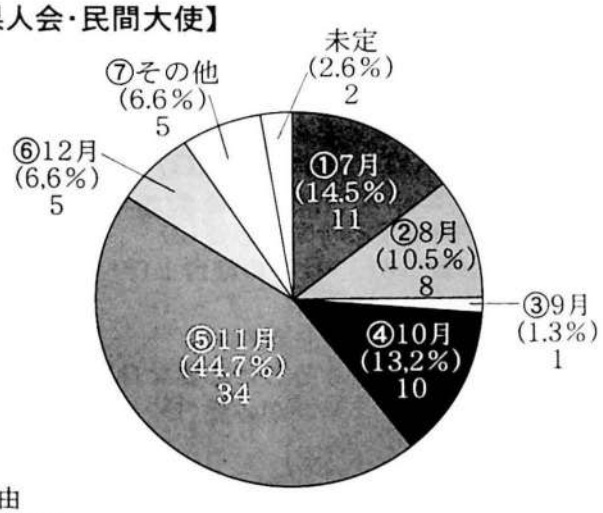
④10月
・県、市町村祭りとのタイアップ(2)
・オフシーズン(1)
・市町村祭りとのタイアップ(1)　・気候が良い(3)
・自主事業との兼ね合い(1)

⑤11月
・議会を除く月(2)　・市町村祭りを除く月(1)
・市町村主催のイベントが少ない(4)
・台風が無い(1)
・県、市町村主催のイベントとのタイアップ(2)
・市町村祭りとのタイアップ(2)　・気候が良い(3)

⑥12月
・11月の大学祭を避ける(1)

⑦その他
〈2月〉沖縄の冬の体験が可能(1)
〈8月-9月〉観光のピーク時であり、多くの人々との交流可能(1)

【県人会・民間大使】



理由

①　7月
・学校休み・子供参加可能(8)　・仕事の都合(4)
・沖縄の美しい時(1)

②8月
・学校休み・子供参加可能(8)　・仕事の都合(4)
・沖縄の美しい時(1)　・真夏の沖縄の体験(1)

③9月
・気候が良い(1)

④10月
・仕事の都合(4)　・気候が良い(5)
・オフシーズン(1)
・最適な月(1)　・(那覇)まつり等がある(3)

⑤11月
・学校休み・子供の参加可能(2)　・仕事の都合(2)
・気候が良い(29)　・台風が無い(4)
・オフシーズン(14)　・イベントが多い(1)
・クリスマスに時間がある(1)
・沖縄での同窓会シーズン帰郷者の参加可能(1)

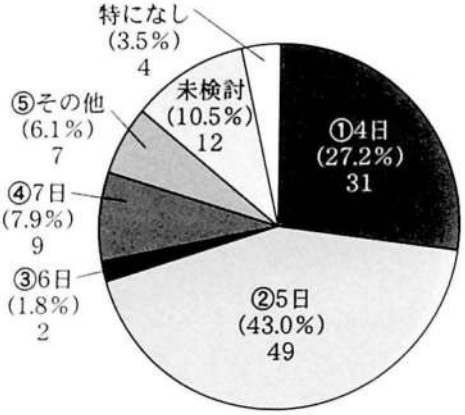
⑥12月
・学校休み・子供参加可能(2)　・仕事の都合(3)
・最適な月(1)

⑦その他
〈3月〉・学校休み・子供参加可能(1)・台風が無い(1)
・仕事の都合(1)
〈春〉・暖かい(1)
〈4月-5月〉・学校休み・子供参加可能(1)
〈10月末-11月初〉・運動会が終わり、11月末の感謝祭に時間がある(1)

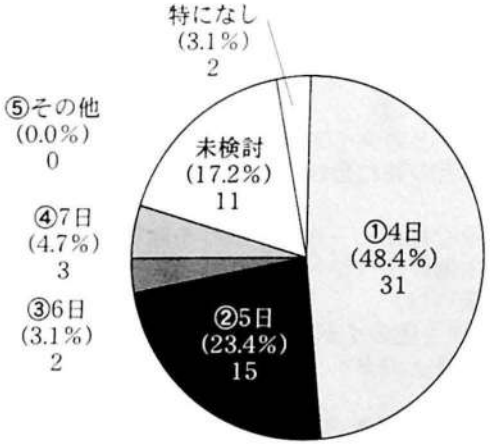
開催時期・期間について

◆開催期間について(参考　第1回大会:4日間　第2回大会:5日間)

【全体】

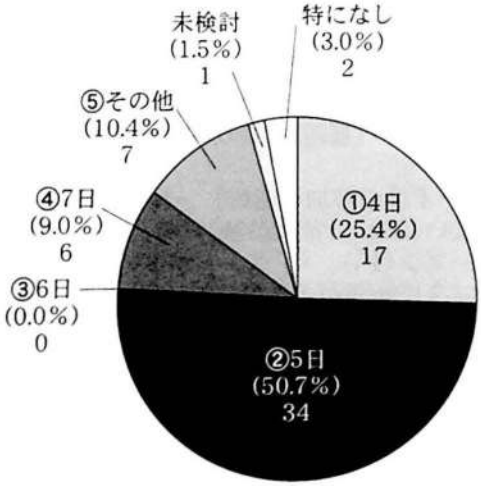


【市町村・協議会等】



理由
①4日
・第1回大会程度が良い(1)
・長期だと職員の対応が困難(1)
・長期だと授業の都合上参加が困難(1)
・海外からの参加者が親戚訪問等できるように、短期集中(1)
②5日
・第2回大会程度が良い(1)
・6日以上は長い(1)
・負担に感じない適当な期間である(1)
・適当な期間である(3)
③6日間
・市町村事業を行うために1日欲しい(1)
④7日間
・広域交流を図る為に必要な期間(2)

【県人会・民間大使】

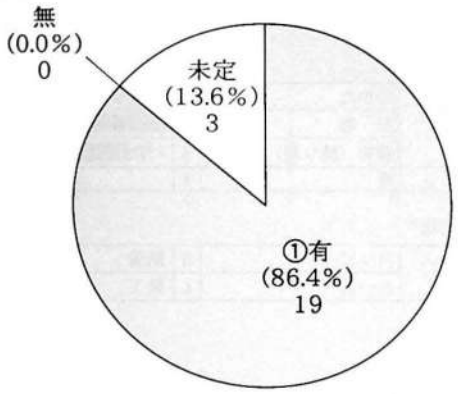


理由
①4日
・親戚訪問等をする時間が必要(2)
・仕事の都合(2)
・短期集中で内容を充実させる(6)
・金銭的問題(1)　・適当な日数(1)
②5日
・親戚訪問等をする時間が必要(3)
・適当な日数(16)　・仕事の都合上(3)
④7日間
・交流するのに必要な日数(6)
・沖縄の文化を理解するのに必要な日数(2)
・親戚訪問等をする時間が必要(1)
・仕事の都合(2)
⑤その他
〈2日間〉2日以上は長すぎる(1)
〈3日間〉5日は長い(1)
〈3日-5日間〉経済、身体、精神的過労を避ける(2)
〈4日-5日間〉親戚訪問等をする時間が必要(1)
〈5日-7日間〉(1)
〈10日間〉(1)

大会参加・滞在日程・宿泊場所について

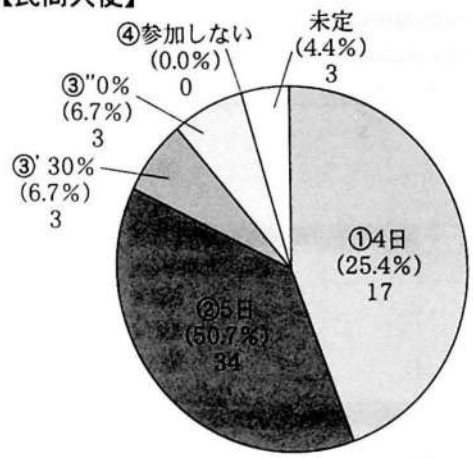
◆ウチナーンチュ大会参加予定について(県人会・民間大使)

【県人会】



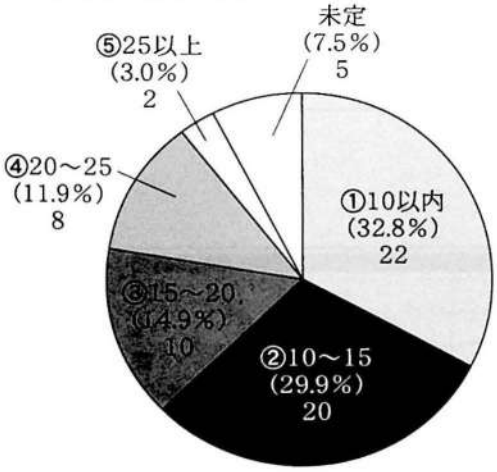
※下段の値は、団体数

【民間大使】

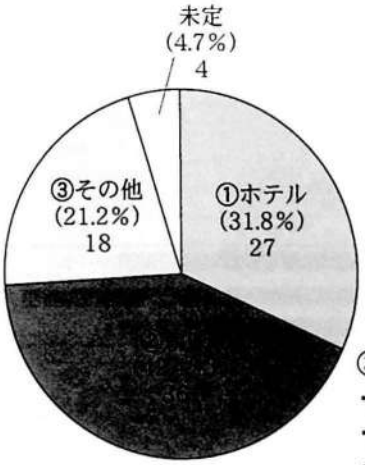


※下段の値は、人数

◆滞在予定日程について
(県人会・民間大使)

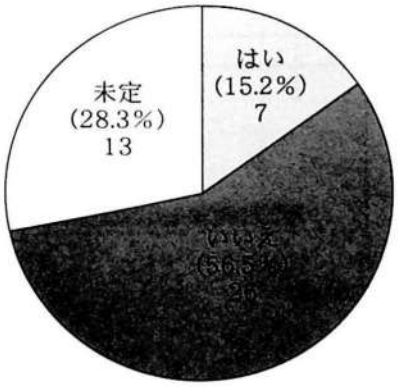


◆宿泊予定場所について
(県人会・民間大使)



③その他
・友人宅(3)
・実家(10)
・姉妹(2)
・その他(3)

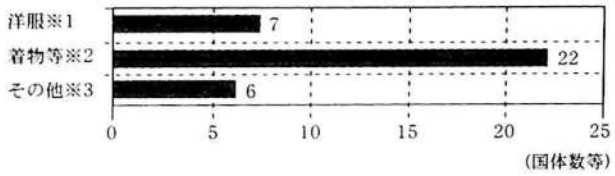
◆各市町村・協議会等におけるホームステイの用意について(市町村・協議会等)



※受入可能人数
・3人程度(1)
・5人(2)
・10人程度(2)
・未定(2)

■お土産に買いたい物について（県人会・民間大使）

①衣類



※1

洋服	Tシャツ	3	背広	1
	シャツ	1	ワンピース	1
	その他	1		

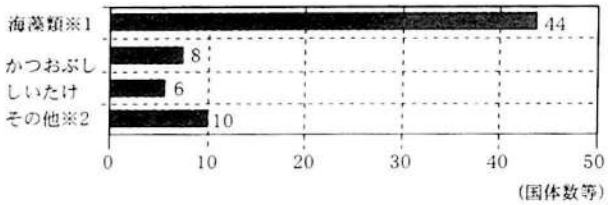
※2

着物等	ゆかた	5	琉球着物	2
	反　物	4	小　物（踊り用）	6
	着物（踊り用）	3	げた	1
	帯	1		

※3

その他	ハッピ	3	肌着	1
	ムーム	1	靴下	1

②乾物



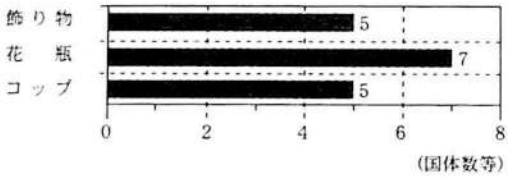
※1

海藻類	のり	16	わかめ	1
	昆布	19	海ぶどう	1
	あーさ	2	ひじき	1
	もずく	2	その他	4

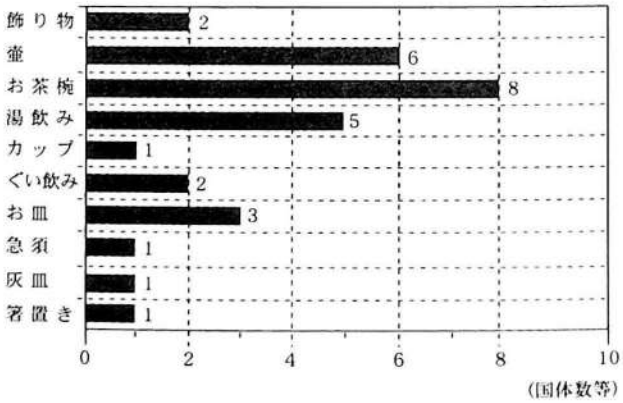
※2

その他	だしの素	3	するめ	2
	そーめん	1	切り干し大根	1
	かんぴょう	1	ふりかけ	1
	お茶漬け	1		

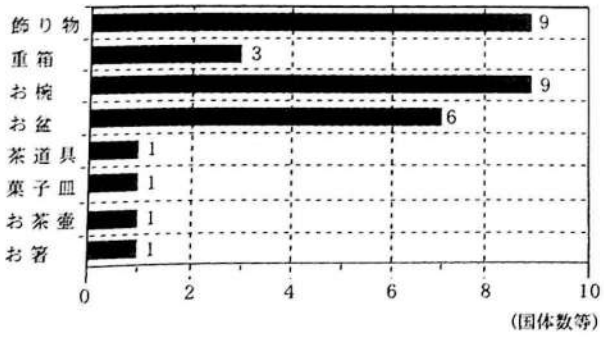
③ガラス製品



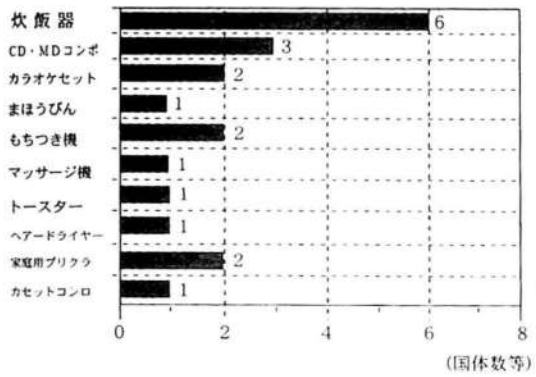
④陶磁器類



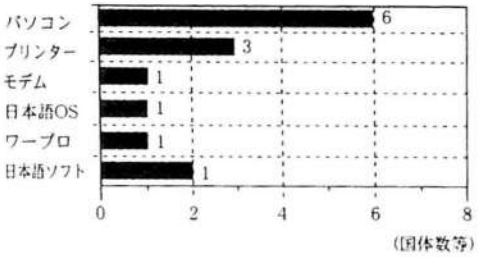
⑤漆器類



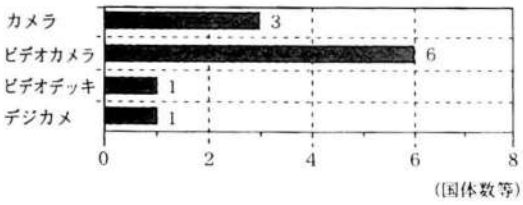
⑥電化製品



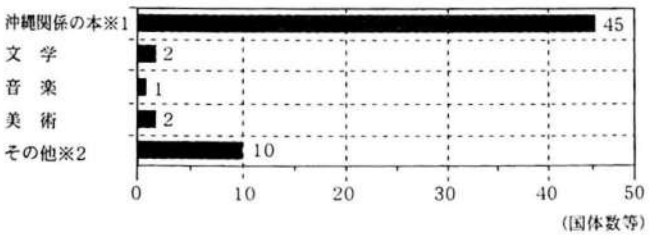
⑦パソコン類



⑧映像製品



⑨書籍



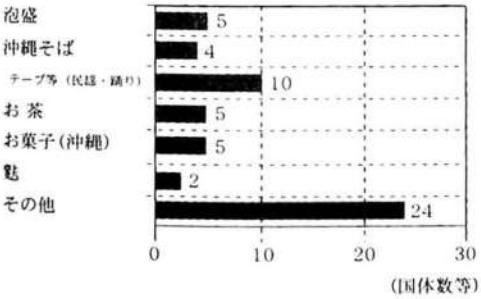
※1

沖縄関係の本	歴史（琉球史等）	11	美術工芸	4
	琉球料理	7	工工四	1
	琉球舞踊	3	民謡	2
	健康長寿食	2	空手・古武道	1
	方言	1	しきたり	1
	海洋生物	1		

※2

その他	旅行	2	本（子供）	1
	手芸	3	教科書	1
	辞典	2	ダイエット	1

⑩その他

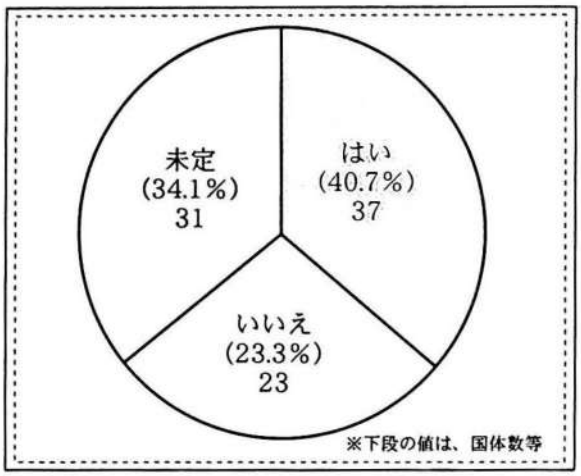


※3

その他	琉球人形	4	塩	1
	三味線	1	みそ	1
	サンゴ製品	2	かばぼこ	1
	手びち	1	教材（日本語）	1
	黒酢	1	くつ	1
	めがね	1	バッグ（ハブ）	1
	時計	1	財布	1
	薬	1	ネックレス	1
	文房具	1	紅型（飾り）	1

■大会期間中のボランティアについて（全体）

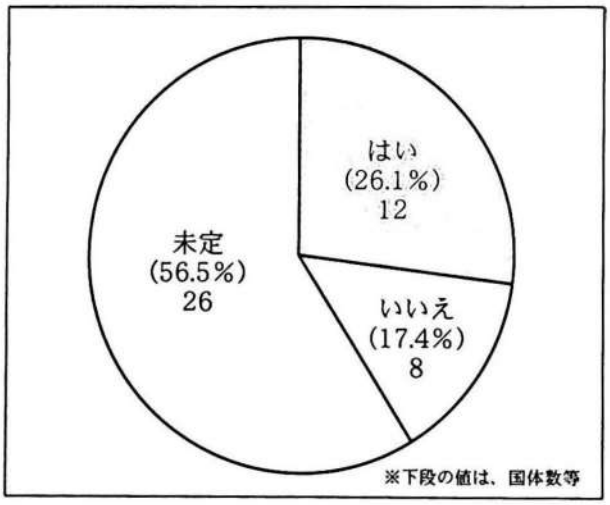
【全体】



言　語	英語	27	ドイツ語	1
	スペイン語	8	フィン語	1
	ポルトガル語	4	フィリピン語	1
	イタリア語	1	マレー語	1
	中国語	10	その他	約120
	台湾語	1		

※言語についての明記なし
（沖縄県ボランティア通訳友の会）

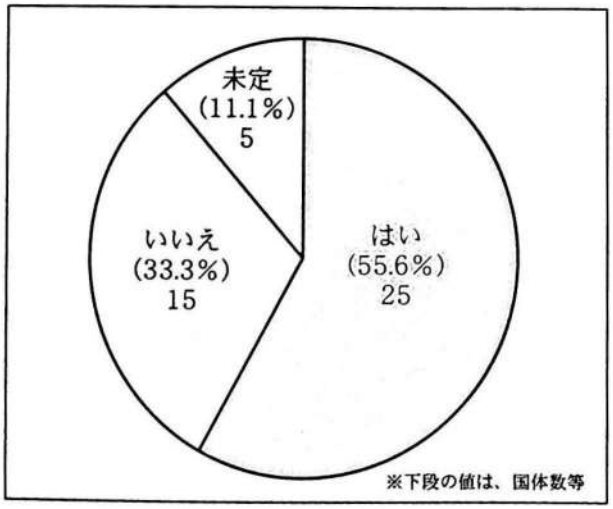
【市町村・協議会等】



言　語	英語	14	本（子供）	3
	中国語	10	教科書	1
	台湾語	1	ダイエット	約120

※言語についての明記なし
（沖縄県ボランティア通訳友の会）

【民間大使】



言　語	英語	13	ドイツ語	1
	スペイン語	5	フィン語	1
	ポルトガル語	3	フィリピン語	1
	イタリア語	1	マレー語	1

時間帯	午前中	4	8時間	1
	午後	3	午前10時 -午後4時	1
	3時間	1		
	3-6時間	1	短時間	1

手伝いたいイベント	文化・芸能	6	渉外	1
	教育・学術	2	観光	1
	スポーツ	1	美術	1
	レセプション	2	ウチナーンチュフォーラム	1
	開会式	1	バザー	1
	民間大使会議	2	パレード	1

◆第3回大会はどのような目的・理念をもった大会にしたいか

【市町村・協議会等】

・イチャリバチョーデー（2）
・ユイマール（1）
・（万国津梁と）恒久平和（5）
・自主独立の沖縄県人（1）
・県民との交流の場（1）
・学術文化交流の場（1）
・若い人たちに夢と希望を与える（エールを送る）大会（2）
・世界各国に在住するウチナーンチュの存在を通して、子供たち自らが世界にはばたく勇気を持てる大会（1）
・2世・3世（若者）を中心とした大会（1）
・ウチナーンチュとしての誇りを持つことができる大会（1）
・ウチナーンチュネットワークの活用・強化（2）
・「OKINAWA」を世界にアピール（2）
・世界から沖縄へ、沖縄から世界へ、情報の集積・発信（1）
・過去を見つめ、新たな100年を見据えた大会（1）
・人口問題・移住問題をテーマにした大会（1）
・グローバルな平和を志向する理念を持ち、ウチナーンチュネットワーク強化をすることにより、情報の共有、人的交流、ビジネス発展を促進し、老若男女が心豊かに人生を送ることのできる大会（1）
・世界のウチナーンチュとの心の絆を、伝統的文化、芸能、食文化を通して深めると同時に、これらの文化やウチナーンチュの信心を世界のウチナーンチュに伝える（1）
・大会参加者を暖かく迎え入れ、良い印象を持ってもらうことのできる大会（1）

【県人会・民間大使】

・イチャリバチョーデー（6）
・万国津梁の精神（1）
・世界平和（1）
・友情（1）
・県民と海外参加者との交流（17）
・若者を意識した大会、交流等（8）
・若者たちへ沖縄の文化・芸術等の継承、理解（4）
・県民へ海外ウチナーンチュの存在をアピールできる大会（2）
・国際化時代に向けた大会（2）
・国際人としてのウチナーンチュ（5）
・国際都市沖縄としての役割についての確認（1）
・沖縄の北東アジアにおける重要性（1）
・ウチナーンチュネットワークの活用・強化（5）
・沖縄との継続的交流を図ることのできる大会（3）
・世界に飛躍する沖縄（1）
・世界の架け橋、文化交流の拠点を強調した『飛躍の基盤オキナワ』をテーマにした大会（1）
・環境問題（1）
・琉舞やエイサーを県民から学ぶことのできる大会（1）
・お金のかからない大会（1）

■自由意見（全体）

【市町村】

・来県者の名簿は、出身市町村に早めに送付して欲しい。
　－全体会では、市の行事案内にもれた人がいた。

【協議会等】

・大会をとおして得られた人的ネットワークを今後の県勢発展にどのようにつなげていくか検討する必要がある。
・大会の模様を、インターネットを利用して世界に発信できたらいいと思う。
・ボランティア通訳部会のような運営組織の設立
・できるだけ早い時期から関わりたい。
・市町村の各種行事をこの大会と同時期に調整できたらいいと思う。そうすることにより、県、市町村の予算の効率化を図ると共に、市町村独自の事業において、世界のウチナーンチュとの交流を図ることができる。
・この大会とタイアップする市町村に対し、予算補助を行うようにしたらどうか。
・WEBとのタイアップを図る。
・多くの県民が参加できるイベントを作って欲しい。
・この大会で、世界のウチナーンチュが心と心の絆を大切にし、お互いに手を取り合って、世界のウチナーンチュとしての認識のもと、世界各国にアピールできたらいいと思う。
・県主催で移動ウチナーンチュ大会を開催する。（各国めぐり）

【県人会・民間大使】

・先人が遺した万国津梁の気概に触れ、郷土沖縄が21世紀に於いて世界との架け橋として、また文化交流の場として立地的基盤を活かし、大きく飛翔する姿をイメージした大会にしてほしい。
　多数の若者が参加しやすい日程及びイベント等の企画をして欲しい。
　他府県から参加希望者が多いので、彼らの参加を認めて欲しい。
　レセプションでは、テーブルに人が立ちすぎて、なかなか食べることができなかった。
　バスのチケットが無料だったので、遠くに住んでいる人達でも自由に町やイベント、親戚等を訪問することができた。（3）
・沖縄の家族・友人達はウチナーンチュ大会についての認識が低かったのに驚いた。
・計画は早めにし、各県人会に各市町村の行事も含めて連絡して欲しい。
・ホテルの料金を安くして欲しい。
・沖縄との交流を各県人会が希望した場合、調整等をして欲しい。
・フィナーレ、レセプション時の食事が贅沢すぎると感じた。今後もこの大会を継続する意味でも、沖縄そばやイナムルチなどのシンプルな食事にしたらどうでしょうか。
・イベントは、最終バスに間に合うように終了してほしい。北部の参加者は大変困った。
・沖縄全体で、海外から来た参加者を迎えてくれてうれしかった。
・離島めぐりがあればいいと思う。
・オハイオには多くのウチナーンチュが故郷を誇りにし、琉舞や歌（琉歌）を楽しんでいる。このことを他の県人会又は沖縄の方々にアピールしたい。
・沖縄のビーチを利用したイベントを企画してほしい。
・2世・3世は日本語が読めないので、沖縄からの情報は英語訳を付けて欲しい。そうすることで、彼らが沖縄やウチナーンチュ大会に対して興味を持つことになり、より多くの参加者が期待できる。
・スポーツイベントでは、テニスを加えて欲しい。テニスなら老若男女を問わず楽しむことができると思う。

【民間大使】

・日本本土と異なる沖縄独特のアイデンティティを維持・発展させる。
・日程設定は早めに決定すべき。
・企画段階における海外県人の参加方法。
・地元との交流を多くする。
・県に渡航費、宿泊費等をお願いしたい。
　－理由：経済状況が悪い（カンボジア）
・民間大使や県人会会議を持ち、沖縄を世界に売り込むにはどのような働きかけが必要か、各国の代表がそれぞれの状況について報告しあう。
・ASEANの国々を注目して欲しい。
・宿泊施設を安く提供して欲しい。
・参加者が沖縄に慣れ親しめるよう1，2日間は、イベントを作って欲しい。例：島内めぐり,,,
・開会及び閉会時に屋外で、参加者が各国それぞれの料理を持ち寄りながら、交流会を行う。
・県民の目を世界に向けるこのとできる大会にして欲しい。
・ウチナーンチュ大会は、友情を深めることのできる大会であり、海外沖縄子弟が祖先のルーツを知ることのできる大会でもある。
・若者とのフォーラムを持ちたい。
・沖縄の習慣や文化を知るために、ホームステイをしたい。
・文化・芸術のプログラムの充実。それらを世界のウチナーンチュ及び県民に理解してもらう。
・若者の学術交流のプログラムの充実。
・ウチナーンチュ大会を機に民間大使としての意義等を確認し、向上したい。
・情報産業に興味がある。
・前回のようなお祭り騒ぎ、お土産、ご馳走はいらない。
・フォーラム的な分科会を持つ。その際には、多くの時間を当てて欲しい。－前回は、2時間程度で会議にならなかった。－
・北加沖縄県人会員は60歳以上がほとんどであり
・前回のような参加者があるか心配。また、2世・3.世達がどれだけ参加するか不安。
・経費のかからない大会。
・前回、県民が暖かく迎えてくれたのでよかった。
・パレードとか開会式等の無駄な儀式は止めて、人々が集うことのできる場を多く作る。
・華僑に学んで、ウチナーンチュも一致団結してネットワークを広げて行けると良いですね。
・物質的でなく、精神的にも幸せになれるよう努力したい。
・沖縄の自然が、そこに住む動物が子孫の時代まで変わることなく存続して欲しい。
・日系人社会全体の発展の為に力を集結して努力していくことが、今後21世紀の海外ウチナーンチュの課題である。発展に寄与することは、結果、沖縄に良い影響　を与えることとなる。
・国際人としての人材教育を図りたい。
・ウチナーンチュ大会が、お互いの絆を深めると共に、沖縄の経済発展に役立つものであってほしい。
・将来の夢を語れるような青少年育成のために、多くのイベントを企画して欲しい。
・各国行政機関や商工団体等と協力し、民間主導での経済ネットワークの構築及び交流を計る。

◆大会として実地してほしいイベントや行事等について（全体）

※（　）は団体数等

沖縄県側（市町村・協議会等）		海外参加者側（県人会・民間大使）	
交流	・青少年（児童生徒）を中心とした交流-学生交流・コースサミット等-（5） ・各市町村との交流（1）	交流	・若者、子供達との交流（9） ・県民及び各国参加者との交流、懇談会等（12） ・海外留学経験者との交流（2）
芸能 音楽 文化 工芸	・伝統（文化、歴史、料理、音楽、風俗、民族衣装等）の紹介、芸能祭等（8） ・シュガーホールを利用した音楽イベント（1） ・のど自慢大会、民謡等音楽祭（1） ・カチャーシー大会（1）	芸能 音楽 文化 工芸	・伝統芸能祭-琉舞、組踊り、三味線、唄、エイサー、芝居・映画等-（19） ・琉舞、エイサー、太鼓等の体験（2） ・エイサー、空手、古武道等の演舞（3） ・のど自慢大会、民謡コンサート等の音楽祭（4） ・伝統工芸品の実演・展示（1） ・ぶくぶく茶の実演（1）
会議等	・ワールドウチナーンチュ女性フォーラム（1）	会議等	・各国県人会長会議（5）・ビジネス会議 ・民間大使会議（11）・ワールドウチナーンチュフォーラム（3）・沖縄紹介セミナー文化、歴史、美術、芸能等-（2） ・沖縄の海洋生物についてのセミナー（1） ・その他/フォーラム・ディスカッション ・ワークショップ・シンポジウム等（4）
その他	・スポーツ大会（2） ・世界のウチナーンチュパネル展（2） ・方言弁論大会（1） ・各市町村の物産展（1） ・沖縄角力世界大会（1） ・沖縄亜熱帯植物の紹介（1） ・老若男女が一堂に会することのできるイベント（1） ・印象に残るイベント（1） ・各国に沖縄関係の資料を送付し、沖縄についての理解を図る（1） ・未検討(20)・特になし（4）	その他	・開会式、閉会式（6） ・パレード（5） ・レセプション（1）・スポーツ大会（5） ・世界のウチナーンチュパネル展（3） ・バザー（3）・本島・離島・歴史ツアー（5） ・植樹祭（1） ・世界及びアジアの物産展（1） ・大会テーマ曲 ・工場/工房/OIC等視察（1） ・花火（1） ・花き、植木、野菜等植物の展示（1） ・文化・学術・芸術に関するイベント（1） ・沖縄の「今」を感じることのできるイベント（2） ・未検討（10）・特になし（4）

◆各市町村・協議会等で大会とタイアップしたい計画について（市町村・協議会等）

※（　）は団体数等

市町村	協議会等
・金武町まつり（8月） ・今帰仁村まつり（8月） ・西原まつり（10月） ・沖縄国際カーニバル（10月） ・読谷まつり（11月） ・知念村まつり ・未検討（9）・特になし（4）	・子供向けのイベント・世界の植物展 ・各国旗掲場 ・中国（文化・民族・歴史）展・県産加工品の展示販売 ・世界各国との県物産のネットワークの形成に繋がるイベント・（2世・3世による）パネルディスカッション-「日系（沖縄系）人アイデンティティ」- ・未検討（9）・特になし（8）

◆大会に向けての、各市町村・協議会等独自の計画について（市町村・協議会等）

※（　）は団体数等

市町村	協議会等
・歓迎会（5） ・世界のシマンチュ大会 ・ゲートボール大会 ・町史編集聞き取り調査 ・地元中学校との交流 ・未検討（7） ・特になし（7）	・歓迎会　・交流会　・ボリビア物産展　・写真展 ・日系人を対象に、日本の研修事業についてアンケート調査-今後の研修制度のあり方について参考にする- ・中国の歴史、文化、民俗、の紹介を通じて、中国とウチナーンチュとの深い関係、交流を図る。 ・未検討（10） ・特になし（8）

●各市町村に伝わる民族芸能や地域の特産品などについて（市町村）

①民族芸能等文化芸術

沖縄市	「泡瀬の京太郎」	沖縄エイサーまつり
今帰仁村	字今泊の棒術	
恩納村	15行政区青年団のエイサー	村文化協会の琉舞
金武町	金武区・並里区の獅子舞伊芸区の南ヌ島	
読谷村	別紙	
北谷町	青年会のエイサー	旧字砂辺の獅子舞
	旧字伊平の獅子舞	
西原町	各部落の旗頭	各部落の獅子舞
東風平町	友寄獅子舞、志多伯獅子舞	
	富盛唐人行列	
	町文化協会創作琉球舞踊	

知念村	組踊り	伝統芸能
佐敷町	シュガーホール	
与那原町	大綱曳き	
具志川村	字具志川：木綿花節、棒術	
	字仲地：仲地はんた前、仲村渠節	
	字西銘：久米阿嘉節（舞踊）	
	字兼城：白川走川節、しゅんどう節、獅子舞	
粟国村	むんじゅる節き	
竹富町	種子取際	節祭

②産業

沖縄市	酪農			
恩納村	自然環境の保護育成及び文化交流（体験学習の受入）			
	リゾート集落の整備			
金武町	田芋	水稲	果樹	泡盛
読谷村	沖縄ハム	やちむん	花織	
東風平町	さときび	花き	野菜	
知念村	水耕栽培	養殖漁業（車エビ、モズク）		

与那原町	赤瓦	
	シーサー・壷類等の陶製品	
具志川村	さといも	菊
	葉たばこ	
粟国村	さとうきび	もちきび（粟）
	あずき	じゃがいも
竹富町	農業	観光業
	水産業	

③特産品

沖縄市	はちみつ（小浜養蜂場）	
	アロエベラ（(株)アロエース）	
今帰仁村	スイカ	
恩納村	切葉、切花	モズク
	ブロイラー	ヒトエ草
	ウミブドウ	
金武町	田芋	泡盛
読谷村	紅イモ	メロン
	読谷山焼	花織
北谷町	泡盛（玉那覇酒造）	吉田屋の羊羹
	竹細工製品	サンニンそば

東風平町	ドラゴンフルーツ	泡盛
知念村	車エビ	モズク
	サヤインゲン	
与那原町	ヒジキ	与那原そば
具志川村	久米島地鶏	久米島紬
	泡盛久米島	久米島産春ウコン
	みそクッキー	
粟国村	黒糖（直火炊き製造）	まーじん（もちきび）
	あぐにようかん	粟国海塩
	そてつみそ	
竹富町	ミンサー織り	泡盛

④歴史・史跡

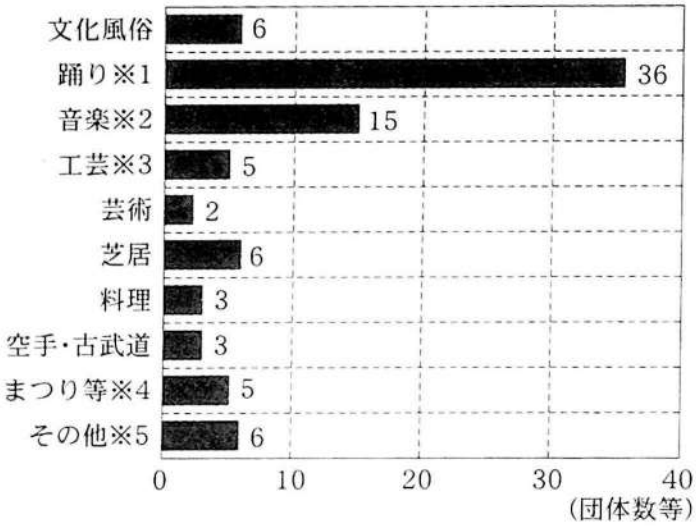
沖縄市	知花城	奉安殿
	池原の石碑	登川の碑
	白椿	泡瀬のビジュル
	引場民収容所跡（戦跡）	嘉手納基地（戦争遺跡）
今帰仁村	今帰仁城跡	運天港
恩納村	万座毛	
金武町	金武観音寺	金武大川（ウフカガー）
読谷村	別紙	
西原町	内間御殿	
東風平町	富盛石彫大獅子	八重瀬城趾公園
	謝花昇銅像	

玉城村	グスクロード（玉城城跡、糸城城跡）	
	垣花桶川	受水走水
知念村	斉場御嶽	知念城跡
与那原町	親川	御殿山
大里村	大里城跡	大城按司
	大城城跡	
具志川村	具志川城跡	五枝の松
	ミーフカン	上江洲家
	自然文化センター久米島館	

イベント関係について

◆沖縄の民俗芸能や特産品など関心のある事項について（県人会・民間大使）

①民俗芸能等文化芸術



※1

踊り	琉球舞踊	18	エイサー	14
	組踊り	3	獅子舞	1

※2

音楽	民謡	8	三味線	2
	太鼓	4	古典音楽	1

※3

工芸	ガラス	1	染物	1
	工芸一般	2		

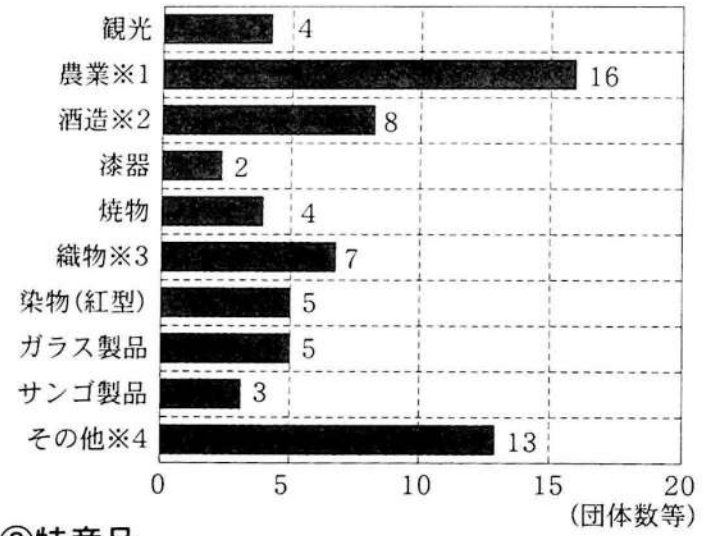
※4

まつり等	綱引き	1	ハーリー	1
	沖縄相撲	1	那覇まつり	1
	沖縄国際カーニバル			1

※5

その他	方言	1	ぶくぶく茶	1
	民俗衣装	1	花火	1
	インドネシア・沖縄の文化芸術等のつながり、類似点について			2

②産業



※1

農業	パイナップル	5	蘭	2
	亜熱帯果樹	1	農業技術	1
	さとうきび・黒糖	5	紅イモ	1

※2

酒造	泡盛	6	オリオンビール	2

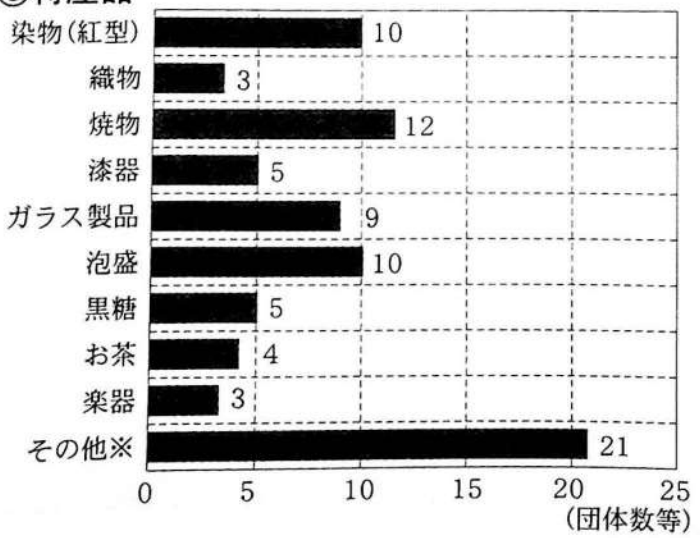
※3

織物	琉球かすり	1	芭蕉布	1
	花織り	1	織物一般	4

※4

その他	沖縄経済	5	情報産業	1
	漁業	1	かまぼこ加工	1
	薬草	1	EM	1
	海産物	1	花・植木	1
	・フリーゾーンの状況 ・工場・企業等の海外進出状況 ・海外留学及びその後の就職状況について			2

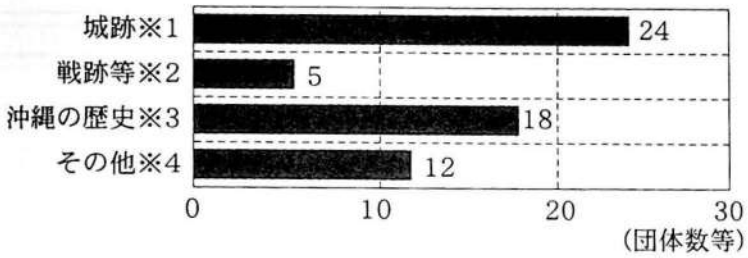
③特産品



※

その他	沖縄そば	4	お菓子（ちんすこう等）	6
	麩	2	サンゴ製品	1
	塩	1	黒酢	1
	豆腐よう	1	果物加工品	1
	スクワラン	1	星砂	1
	健康食品			1
	特産品の海外輸出状況について			2

④歴史・史跡



※1

城跡	首里城	14	その他	10

※2

戦跡等	ひめゆりの等・資料館			2
	平和の礎	2	戦跡	1

※3

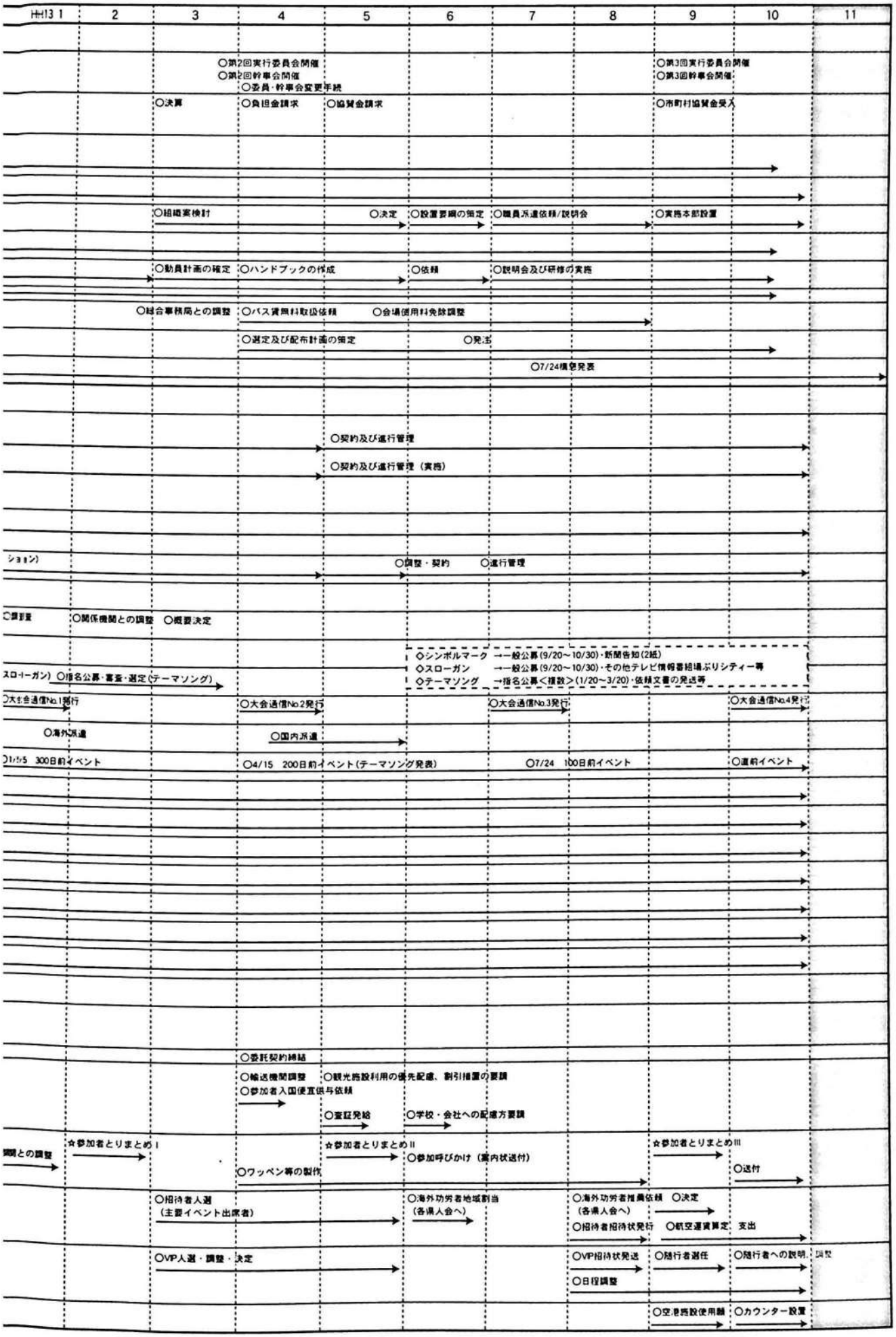
沖縄の歴史	琉球王朝	12	現代史	1
	戦争	3	歴代奉安	1
	海岸問題			1

※4

その他	史跡訪問	41	植物園	1
	セイファウタキ	1	玉泉洞	1
	博物館	1	識名園	1
	琉球村		昔の沖縄の地図	1
	カッチン・アマワリの由来について			1

2　第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員事業計画（平成12年4月～平成13年度11月まで）

	事　項	H12 4	5	6	7	H12 8	9	10	11	12
総務関係	・基本方針	○基本方針案作成			○決定					
	・実行委員会関係		○委員の選定作業	○第1回準備幹事会開催(7/26) ○規約・規程案作成	○委員就任依頼	○第1回実行委員会開催 ○規約・規程制定			○第1回幹事会	
	・予算関係					○負担金請求			○12月補正予算案提出 ○次年度予算案提出	
	・後援、協賛依頼				○後援団体の選定	○協力依頼・調整 (市長会・町村会)(関係各省庁)		○後援依頼　○県内協賛団体の選定・依頼 (大使館他)		
	・寄付金活動						○寄付金要綱作成	○対象企業団体のリストアップ		○寄付金募集
	・大会実施本部の設置									
	・翻訳、通訳に係る業務調整						○交流員の配置		○嘱託員の配置	
	・通訳、ガイド等のボランティア							○国際交流・人材派遣育成財団との協議	○動員計画案策定	
	・外国との一般連絡・調整									
	・関係機関への便宜供与依頼									
	・おみやげ、記念品									
	・大会記念ネットワーク構想							○構想検討		
事業関係	・事業に関する基本方針	○検討			○策定					
	・事業実施計画 ◆開催期間中の事業内容			○アンケート調査(海外県人会等)		○集約・分析		○関係機関との調整 ○素案策定	○策定/実施主体等との調整	
	◆開催期間前の事業内容							○素案策定	○策定/実施主体等との調整	
	◆個別事業実施スケジュール									○策定
	・市町村との連携 (G8各国交流市町村の事業実施)					○アンケート調査	○分析	○連絡・調整 ○担当者会議		○実施依頼
	・民間団体等との連携					○調整（産業・経済、文化・芸術、学術・教育、スポーツ、国際会議・ネットワーク、アトラク				
	・会場の確保						○調整		○申請	
	・交通対策									
広報関係	・広報関係					○検討		策定		
	・シンボルマーク、スローガン、テーマソングの作成					○公募企画・審査・決定・製作			○11/1発表・発送(シンボルマーク)	
	・チラシ、リーフレット、ポスターの作成 ・大会通信の発行						○企画コンペ・製作・発送			
	・海外プロモーション(事前PR、PR団派遣)							○持参広報ツールの作成/派遣計画の作成		
	・広報イベント								○11/11年前イベント(移動展示	
	・各種広報媒体の活用							○実施/テレビ・ラジオ・新聞等の利用		
	・屋外露出						○実施/バナー・懸垂幕・横幕等の活用(各市町村・民間へも協力)			
	・インターネットホームページの展開		○企画			○運営				
	・市町村との連携						○広報依頼(各市町村の広報誌の活用)			
	・マスコミ等の対応						○実施			
	・広報委託の総合管理、調整								○実施	
	・写真集、記録集、報告書の作成									○企画制作
	・大会シンボルマークと取扱に関する規程						○検討	○決定		
招待関係	・招待に関する基本方針							○招待に関する基本方針作成 ○招待要綱作成		
	・委託業務関係						○調整	○委託契約締結		
	・関係団体への協力依頼								○航空会社へ座席配達の要請 ○ホテル協同組合へ宿泊配達の要請 ○沖縄観光ガイドの送付	
	・海外及び国内県人会との連絡調整								○集客・旅行業務について 海外県人会長へ依頼　○案内	
	・海外功労者等の招待関係							○招待者人選案案		
	・VIP対応							○VIPの人選案案		
	・空港等における歓迎施設の整備等									


HH13 1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
○第2回実行委員会開催
○第2回幹事会開催
○委員・幹事会変更手続
○第3回実行委員会開催
○第3回幹事会開催
○決算
○負担金請求
○協賛金請求
○市町村協賛金受入
○組織案検討
○決定
○設置要綱の策定
○職員派遣依頼/説明会
○実務本部設置
○動員計画の確定
○ハンドブックの作成
○依頼
○説明会及び研修の実施
○総合事務局との調整
○バス賃無料取扱依頼
○会場使用料免除調整
○選定及び配布計画の策定
○発注
○7/24概要発表
○契約及び進行管理
○契約及び進行管理（実務）
○調整・契約
○進行管理
○関係機関との調整
○概要決定
◇シンボルマーク →一般公募(9/20～10/30)・新聞告知(2紙)
◇スローガン →一般公募(9/20～10/30)・その他テレビ情報番組ぶりシティー等
◇テーマソング →指名公募<複数>(1/20～3/20)・依頼文書の発送等
○指名公募・審査・選定(テーマソング)
○大会通信No.1発行
○大会通信No.2発行
○大会通信No.3発行
○大会通信No.4発行
○海外派遣
○国内派遣
○1/15 300日前イベント
○4/15 200日前イベント(テーマソング発表)
○7/24 100日前イベント
○直前イベント
○委託契約締結
○輸送機関調整
○観光施設利用の優先配慮、割引措置の要請
○参加者入国便宜供与依頼
○査証発給
○学校・会社への配慮方要請
☆参加者とりまとめ I
☆参加者とりまとめ II
☆参加者とりまとめ III
○参加呼びかけ（案内状送付）
○ワッペン等の製作
○送付
○招待者人選
（主要イベント出席者）
○海外功労者地域割当
（各県人会へ）
○海外功労者推薦依頼 ○決定
（各県人会へ）
○招待者招待状発行
○航空運賃算定 支出
○VIP人選・調整・決定
○VIP招待状発送
○随行者選任
○随行者への説明、調整
○日程調整
○空港施設使用料
○カウンター設置

3　第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会規約

（名称）

第１条　本会は、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会（以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第２条　本会は、世界各地で活躍するウチナーンチュ（県系人）を中心とする人的ネットワークを拡大発展させるため、平成１３年に第３回世界のウチナーンチュ大会（以下「大会」と称する。）を開催し、相互の経済、文化、教育等の発展や活性化に寄与するとともに、本県が国際交流の拠点として飛躍することを目指す。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するため次のような事業を行う。

（１）大会の企画及び実施

（２）大会開催に関する広報事業

（３）その他本会の目的を達成するために必要な事業

（組織）

第４条　本会は会長、副会長、委員及び監事をもって組織する。

２　会長は、沖縄県知事の職にある者をもって充てる。

３　副会長、委員及び監事は、別表１に掲げる職にある者とし、会長が委嘱する。

（役員の職務）

第５条　会長は、本会を代表し、会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

３　その職務を代理する者は、あらかじめ会長が指定した者とする。

４　監事は、会長から審査に付された決算書を監査する。

（任期）

第６条　役員、委員及び監事の任期は、本会が解散されるまでとする。

（会議）

第７条　会議は、会長が招集し、その議長となる。

２　第３条に掲げる事業を推進するため、本会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。

（１）大会運営に係る基本的事項に関すること

（２）事業計画に関すること

（３）予算及び決算に関すること

（４）規約の制定及び改廃に関すること

（５）その他、重要な事項に関すること

（議事）

第８条　本会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（会長の専決事項）

第９条　会長は、会議を招集する暇がない場合における緊急な事項については、これを専決処分することができる。

２　会長は前項の規定により専決処分したときは、これを次の会議に報告しその承認を得なければならない。

（幹事会）

第10条　本会に幹事会を置く。

２　幹事会は会議に付議すべき事案をあらかじめ調査検討し、会議の円滑な運営を図る。

３　幹事会は幹事長、副幹事長及び幹事をもって組織する。

４　幹事長は沖縄県文化環境部第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局長をもって充てる。

５　副幹事長及び幹事は別表２に掲げる職にある者とし、会長が委嘱する。

６　幹事長は、会務を総括する。

７　副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはその職務を代理する。

8　幹事長の職務を代理する者は、あらかじめ幹事長が指定した者とする。
9　幹事長は、必要があるときは専門家又は関係者を参考人として幹事会に出席を求めることができる。
（事務局）
第11条　本会の事務を処理するため、沖縄県文化環境部第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局内に事務局を置く。
2　事務局職員は、県関係部局、関係機関等の職員を兼務させるものとする。
3　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。
（会計）
第12条　本会の経費は、負担金その他の収入をもって充てる。
（会計年度）
第13条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。
2　本会の会計に関し必要な事項は、会長が定めるもののほか、沖縄県の財務に関する諸規定の例による。
（解散）
第14条　本会は、事業の目的を達成したとき解散する。
（委任）
第15条　この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。
附　則
この規約は、平成１２年８月１日から施行する。
附　則
この規約は、平成１３年４月２６日から施行し、平成１３年４月１日から適用する。

4　実行委員会及び実行委員会幹事会名簿

	役員/委員	所　　属	役　　職
1	会長	沖縄県	知事
2	副会長	沖縄県議会	議長
3	副会長	沖縄県	副知事
4	副会長	沖縄県	副知事
5	副会長	沖縄県	出納長
6	副会長	沖縄県市長会	会長
7	副会長	沖縄県町村会	会長
8	副会長	沖縄県商工会議所連合会	会長
9	副会長	(財) 沖縄県国際交流・人材育成財団	理事長
10	副会長	(財) 沖縄観光コンベンションビューロー	理事長
11	委員	(社) 沖縄県工業連合会	会長
12	委員	(社) 沖縄県経営者協会	会長
13	委員	沖縄県中小企業団体中央会	会長
14	委員	沖縄経済同友会	代表幹事
15	委員	沖縄県商工会連合会	会長
16	委員	沖縄県農業協同組合中央会	会長
17	委員	(社) 沖縄県水産業中央会	会長
18	委員	(社) 沖縄県建設産業団体連合会	会長
19	委員	ＷＵＢ沖縄	会長
20	委員	沖縄電力 (株)	副社長
21	委員	(社) 沖縄県医師会	会長
22	委員	(社) バス協会	会長
23	委員	(社) 沖縄県タクシー協会	会長
24	委員	(社) 沖縄県銀行協会	会長
25	委員	国際協力事業団沖縄国際センター	所長
26	委員	(財) 海洋博覧会記念公園管理財団	常務理事
27	委員	(財) 沖縄県体育協会	専務理事
28	委員	協同組合沖縄フリートレードゾーン	理事長
29	委員	沖縄県青年団協議会	会長
30	委員	(社) 沖縄県婦人連合会	会長
31	委員	沖縄パイロットクラブ	会長
32	委員	沖縄県女性の翼の会	会長
33	委員	コザパイロットクラブ	会長
34	委員	沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合	理事長
35	委員	(社) 日本ホテル協会沖縄支部	支部長
36	委員	日本旅行業協会沖縄支部	支部長
37	委員	全国旅行業協会沖縄県支部	支部長
38	委員	沖縄県旅行業協同組合	理事長
39	委員	ＮＴＴ西日本 (株) 沖縄支店	支店長
40	委員	日本テレコム (株) 沖縄支店	支店長
41	委員	ＫＤＤＩ (株) 沖縄支店	支店長
42	委員	ｹｰﾌﾞﾙ･ｱﾝﾄﾞ･ﾜｲﾔﾚｽIDC (株) 沖縄営業所	所長
43	委員	沖縄セルラー電話 (株)	社長
44	委員	沖縄ケーブルネットワーク (株)	社長
45	委員	沖縄通信ネットワーク (株)	社長
46	委員	ＮＨＫ沖縄放送局	局長
47	委員	琉球放送 (株)	社長
48	委員	沖縄テレビ放送 (株)	社長
49	委員	琉球朝日放送 (株)	社長
50	委員	沖縄タイムス社 (株)	社長
51	委員	琉球新報社 (株)	社長
52	委員	(株) ラジオ沖縄	社長
53	委員	(株) エフエム沖縄	社長
54	委員	沖縄県社会福祉協議会	会長
55	委員	沖縄県身体障害者福祉協会	会長
56	委員	(財) 沖縄県戦没者慰霊奉賛会	会長
57	委員	(財) 沖縄県遺族連合会	会長
58	委員	在沖米国商工会議所	会頭
59	委員	中琉文化経済協會	代表
60	委員	フィリピン領事館	名誉領事
61	委員	ブラジル連邦共和国在那覇名誉領事館	名誉領事
62	委員	ボリヴィア共和国名誉領事館	名誉領事
63	委員	沖縄アルゼンチン協会	会長
64	委員	沖縄インドネシア友好協会	会長
65	委員	沖縄カナダ協会	会長
66	委員	沖縄県青年海外協力協会	会長
67	委員	沖縄県ボランティア通訳友の会	代表
68	委員	沖縄ハワイ協会	会長
69	委員	沖縄フィリピン協会	会長
70	委員	沖縄ブラジル協会	会長
71	委員	沖縄ベトナム友好協会	会長
72	委員	沖縄ペルー協会	会長
73	委員	沖縄ボリビア協会	会長
74	委員	沖縄メキシコ協会	会長
75	委員	国際ソロプチミスト沖縄	会長
76	委員	(社) 日本青年会議所沖縄地区協議会	会長
77	委員	(財) りゅうぎん国際化振興財団	理事長
78	委員	沖縄ＮＧＯ活動推進協議会	会長
79	委員	(財) 沖縄県文化振興会	常務理事
80	委員	沖縄県文化協会	会長
81	委員	(社) 沖縄県歯科医師会	会長
82	委員	(社) 沖縄県薬剤師会	会長
83	委員	(社) 沖縄県看護協会	会長
84	委員	沖縄県金融協会	会長
85	委員	(社) 沖縄県緑化推進委員会	理事長
86	委員	沖縄県酒造組合連合会	会長
87	委員	沖縄県	政策調整監
88	委員	沖縄県	技監
89	委員	沖縄県	総務部長
90	委員	沖縄県	知事公室長
91	委員	沖縄県	企画開発部長
92	委員	沖縄県	地域離島振興局長
93	委員	沖縄県	文化環境部長
94	委員	沖縄県	福祉保健部長
95	委員	沖縄県	病院管理局長
96	委員	沖縄県	農林水産部長
97	委員	沖縄県	商工労働部長
98	委員	沖縄県	観光リゾート局長
99	委員	沖縄県	土木建築部長
100	委員	沖縄県	教育長
101	委員	沖縄県	企業局長
102	委員	沖縄県	警察本部長
103	監事	沖縄県	出納事務局長
104	監事	沖縄県	総務部次長

幹事会名簿

	役員/委員	所　　属	役　　職
1	幹事長	沖縄県	大会推進事務局長
2	副幹事長	(財) 沖縄観光コンベンションビーロー	事務局長
3	副幹事長	(財) 沖縄県国際交流・人材育成財団	事務局長
4	幹事	沖縄県議会	事務局次長
5	幹事	沖縄県市長会	事務局長
6	幹事	沖縄県町村会	事務局長
7	幹事	沖縄県商工会議所連合会	事務局長
8	幹事	沖縄県	教育次長
9	幹事	沖縄県	企業局次長
10	幹事	沖縄県	警察本部参事官兼警務課長
11	幹事	沖縄県	総務部参事
12	幹事	沖縄県	知事公室次長
13	幹事	沖縄県	企画開発部次長
14	幹事	沖縄県	地域・離島振興局次長
15	幹事	沖縄県	文化環境部次長
16	幹事	沖縄県	福祉保健部次長
17	幹事	沖縄県	病院管理局次長
18	幹事	沖縄県	農林水産部次長
19	幹事	沖縄県	商工労働部次長
20	幹事	沖縄県	観光ﾘｿﾞｰﾄ局次長
21	幹事	沖縄県	土木建築部次長

5　第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局設置要領

（設置の目的）
第１条　平成１３年１１月に本県で開催される第３回世界のウチナーンチュ大会の円滑な実施を図るため、プロジェクトチームを設置する。

（名称）
第２条　プロジェクトチームの名称は、第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局（以下「推進事務局」という。）とする

（所掌事務）
第３条　推進事務局の所掌事務は、次のとおりとする。
（１）ウチナーンチュ大会の総合的企画、調整及び進行管理に関すること。
（２）ウチナーンチュ大会の広報及び記録等に関すること。
（３）ウチナーンチュ大会の招待に関すること。
（４）ウチナーンチュ大会のイベント実施、交通対策、協賛事業等に関すること。
（５）その他ウチナーンチュ大会に関すること。

（構成）
第４条　推進事務局に事務局長、事務局次長、事務局副参事及びその他の職員を置く。

（事務局長等）
第５条　事務局長に文化環境部参事監、事務局次長に国際交流課長、事務局副参事に国際交流課副参事を充てる。
２　事務局長は、推進事務局の事務を総括する。
３　事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故があるときはその職務を代理する。
４　事務局副参事は、所掌する班の事務を総合調整する。
５　特に必要と認めるときは、第４条に規定する者以外の関係部署の職員を参加させることができるものとする。

（報告）
第６条　事務局長は、必要に応じて業務の進行状況を知事に報告し、その指示を受ける。

（庶務）
第７条　推進事務局の庶務は、文化環境部国際交流課において行う。

（服務）
第８条　推進事務局職員に係る出張命令・休暇等の命令及び承認は、事務局長が行うものとする。

（補足）
第９条　この要領に定めるもののほか、推進事務局の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この要領は、平成１３年４月１日から施行する。

6　第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
事務局の組織及び運営に関する規程

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規程は、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会規約第１１条第３項の規定に基づき、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局（以下「事務局」という。）の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。

第２章　事務局

（事務局）

第２条　事務局は、沖縄県文化環境部第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局内に置く。

（業務）

第３条　事務局は、第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会（以下「本会」という。）に関する一切の事務を処理する。

（組織及び所掌事務）

第４条　事務局に別表第１に掲げる班を置き、それぞれ同表に掲げる事務を分掌する。

（職員）

第５条　事務局に次の職員を置く。

（１）事務局長

（２）事務局次長

（３）事務局副参事

（４）班長

（５）班員

２　事務局長は、沖縄県文化環境部第３回世界のウチナーンチュ大会推進事務局長をもって充てる。

３　会長は前項に定めるもののほか、特に必要があると認めるときは、職員を任命又は委嘱することができる。

（職務）

第６条　事務局長は、会長の命を受け事務を総括し、職員を指揮監督する。

２　事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときは、事務局次長がその職務を代理する。

３　事務局副参事は、各班の総合調整及び進行管理をする。

４　班長は、上司の命を受け班の事務を総括する。

５　班員は、上司の命を受け事務に従事する。

第３章　事務の決裁

（専決）

第７条　事務局、事務局次長、事務局副参事及び班長は、別表第２に掲げる事項を専決することができる。

（代理決裁）

第８条　会長が不在のときは、あらかじめ、会長が指定した副会長が、会長及び副会長がともに不在のときは、事務局長がその事務を代理決裁する。

２　事務局長が不在のときは、事務局次長がその職務を代理決裁する。

３　代理決裁した事項については、速やかに専決すべき者の後閲を受け、又は報告しなければならない。

（重要事項の専決保留）

第９条　専決者は、この規程の定めるところにより、専決できる事項であっても、事案の内容が特に重要であるもの、異例のもの、疑義のあるもの、重大な紛争を生ずるおそれのあるもの等は、上司の決裁を受けなければならない。

第４章　文書

（収受及び発送）

第10条　事務局に到着した文書及び物品は、総務班で収受し、配布するものとする。

２　事務局から発送する文書及び物品の事務は、各班において行うものとする。

（記号及び番号）

第11条　文書には、「世ウ委」の記号を付し、総務班備え付けの文書処理簿による一連番号をつけなければならない。ただし、簡易な文書については、これを省略することができる。

（発信者名）

第12条　文書の発信者は、会長名を用いるものとする。ただし、事案の軽易な文書にあっては事務局長名を用いることができる。

（合議）

第13条　他の班に関係があると認められる起案文書については、当該班に合議しなければならない。

第５章　公印

（公印）

第14条　本会が使用する印（以下「公印」と称する。）の種類は、別表第３のとおりとする。

２　前項に定める公印の管理者は、総務班長とする。

第６章　服務

（服務）

第15条　職員の服務については、沖縄県服務規程の例による。

第７章　財務

（予算案の作成）

第16条　事務局長は、毎年度予算案を作成し、会長の決裁を受けなければならない。予算の補正についても同様とする。

（出納員の設置）

第17条　事務局に出納員を置く。

２　出納員は事務局次長をもって充てる。

３　出納員の職務は、次のとおりとする。

（１）現金（証券を含む）の出納及び保管に関すること。

（２）物品の出納及び管理に関すること。

（３）前各号に付随する会計事務に関すること。

（出納閉鎖）

第18条　出納は、翌年の４月３０日に閉鎖する。

２　前項の出納閉鎖期日は、会長がやむを得ないと認めるときは、その期日を変更することができる。

（金融機関の指定）

第20条　現金の出納は、事務局長が指定する金融機関を通して取り扱うものとする。

（決算）

第21条　出納員は、出納閉鎖後３０日以内に収入支出決算書を会長に提出しなければならない。

第８章　補則

第22条　この規程に定めるもののほか、事務局の運営に関しては、沖縄県の諸規則等の例による。

附　則

この規程は、平成１２年８月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１３年４月１日から施行する

＜別表第１＞（第４条関係）

班　　名	所　　掌　　事　　務
総務班	1　大会の指針となる基本方針の策定に関すること。 2　諸規定の制定改廃に関すること。 3　組織及び人事に関すること。 4　予算の編成、執行及び決算に関すること。 5　財務、募金に関すること。 6　出納事務に関すること。 7　国･市町村･関係団体との総合連絡調整に関すること。 8　委員会及び幹事会に関すること。 9　通訳・ガイド等ボランティアに関すること。 10　大会記念表彰に関すること。 11　その他、他班に属しない事項
広報班	1　広報に関すること。 2　マスコミ対応に関すること。 3　国内外首脳からのメッセージに関すること。 4　広報プロモーションの企画･人選･派遣に関すること。 5　広報委託業者の管理・調整に関すること。 6　報告書、写真集、記録ビデオの作成に関すること。 7　その他広報に関すること。
招待班	1　国内外招待者等の選定･連絡調整に関すること。 2　国内外県人会、民間大使との連絡調整に関すること。 3　宿泊・運輸に関すること。 4　委託業務の管理･調整に関すること。 5　レセプションに関すること。 6　その他招待に関すること。
イベント班	1　イベントの企画･実施に関すること。 2　イベントに係る国内外との連絡調整に関すること。 3　市町村の関連イベントに係る連絡調整に関すること。 4　委託業務の管理･調整に関すること。 5　その他イベントに関すること。

<別表第２>（第７条関係）

1　事務局長専決事項

（1）班長、班員の任命及び事務分担

（2）事務局長、事務局次長、事務局副参事の旅行命令並びに復命の受理（事務局長の県外旅行３日以上を除く。）

（3）国、市町村及び関係機関との協議

（4）重要な通達、申請、進達、副申、通知、照会、回答又は報告

（5）シンボルマークの使用許可及び協賛の付与

（6）前各号に掲げるもののほか沖縄県事務決裁規程（昭和４８年訓令第８９号）に定める部長の例による。

2　事務局次長専決事項

（1）班長、班員の旅行命令並びに復命の受理

（2）職員以外の者の旅行依頼及び報告の受理

（3）委員会及び幹事会の庶務

（4）予算の配当、流用及び収入金の調停並びに徴収

（5）支出負担行為の決定及び支出命令

（6）前各号に掲げるもののほか沖縄県事務決裁規程（昭和４８年訓令第８９号）に定める課長の例による。

3　事務局副参事専決事項

（1）軽易な通達、申請、進達、副申、通知、照会、回答または報告

4　班長専決事項

（1）班の庶務

＜別表第３＞（第１５条関係）

公印の種類	ひ な 型	寸　　法
会長印 （一般文書用）	第３回世界のｳﾁﾅｰﾝﾁｭ大会実行委員会会長之印	30ﾐﾘﾒｰﾄﾙ平方 れい書
会長印 （委嘱状用）	第３回世界のｳﾁﾅｰﾝﾁｭ大会実行委員会会長之印	30ﾐﾘﾒｰﾄﾙ平方 てん書
会長印 （銀行届出用）	第３回世界のｳﾁﾅｰﾝﾁｭ大会実行委員会会長之印	直径20ﾐﾘﾒｰﾄﾙ れい書
事務局長印	第３回世界のｳﾁﾅｰﾝﾁｭ大会実行委員会事務局長之印	27ﾐﾘﾒｰﾄﾙ平方 れい書

7　第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局職員名簿

○平成１２年８月１日現在

事務局長（国際交流課長）	野　原　耕　栄	
事務局次長（副参事）	島　田　　薫	
（総務班）		
副参事（次長兼務）	島　田　　薫	
主　任	山　城　貴　子	
主　事	崎　濱　　香	
（広報班）		
主　幹	大　城　正　美	（沖縄観光コンベンションビューロー）
主　事（臨任）	仲　間　友　紀	
（招待班）		
主　幹	石　川　洋　幸	
（イベント班）		
主　査	狩　俣　栄　人	
主　事	大　城　　司	（沖縄県国際交流・人材育成財団）
（非常勤）	友　利　陽　子	（H12,10/1～）
	屋　嘉　さつき	（H12,10/1～）

○平成１３年４月１日現在

事務局長（参事監）	太　田　守　胤	
事務局次長（国際交流課長）	比　嘉　勝　彦	
企画・広報アドバイザー	松　田　隆　仁	（株式会社電通沖縄）
（総務班）		
副参事（次長兼務）	島　田　　薫	
主　幹	国　吉　　薫	
主　任	山　城　貴　子	
主　事	崎　濱　　香	
（広報班）		
主　幹	大　城　正　美	（沖縄観光コンベンションビューロー）
主　任	古波蔵寿勝	
（招待班）		
副参事	赤　嶺　徳　男	
主　幹	石　川　洋　幸	
主　事（臨任）	友　利　陽　子	
主　事	久手堅清夏	
（イベント班）		
主　査	狩　俣　栄　人	
主　事	大　城　　司	（沖縄県国際交流・人材育成財団）
主　事（臨任）	玉　城　生　子	
翻訳アドバイザー	平　井　　雅	（H13,9/1～11/5）
（非常勤）	上　原　ゆかり	
	屋　嘉　さつき	
	新　里　有　希	

8　第３回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
環境美化推進会議設置要綱

（設　置）

第１条　第３回世界のウチナーンチュ大会（以下「大会」という。）の開催に向けて、全県一体となった受け入れのための環境美化を推進するために、大会実行委員会規約第１５条の規定に基づき環境美化推進会議を設置する。

（事　業）

第２条　本会議は、全県下における次の事業を推進する。

（１）クリーンアップ事業に関すること。

（２）緑化、飾花事業に関すること。

（３）その他、環境美化推進会議の目的を達成するために必要な事業。

（組　織）

第３条　本会議は、議長、副議長、委員をもって組織する。

２　委員は、別表１に掲げる職にある者とし、大会時実行委員会会長が委嘱する。

３　議長は、実行委員会委員の沖縄文化環境部長をもって充てる。

４　副議長は、委員の中から議長が指名する。

（役員の職務）

第４条　議長は、本会議を代表し、会務を総理する。

２　副議長は、委員長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

３　その職務を代理する者は、あらかじめ議長が指定した者とする。

（任　期）

第５条　役員、委員、任期は、本会議が解散されるまでとする。

（召　集）

第６条　本会議の開催は、必要に応じて議長が召集する。

２　議長は本会議を主宰する。

３　議長は、必要があると認めるときは、関係者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶　務）

第７条　本会議に関する庶務は、大会実行委員会推進事務局が処理するものとする。

（解　散）

第８条　本会議は事業の目的を達成したとき解散する。

（委　任）

第９条　この規約に定めるもののほか、本会議の運営に関し必要な事項は、議長が定める。

附　則

この規約は、平成１３年７月２４日から施行する。

9　環境美化推進会議委員名簿

役員／委員		所　属	役　職	氏　名	備　考
	議　員	沖縄県文化環境部	部長	永山政邦	
	委　員	沖縄観光コンベンションビューロー	事務局長	大浜高伸	
	委　員	(財) 沖縄県国際交流・人材育成財団	事務局長	照屋　力	
	委　員	沖縄総合事務局開発建設部南部国道事務所	所長	大宮貴治	
	委　員	沖縄総合事務局開発建設部北部国道事務所	所長	幸地維章	
	委　員	沖縄県市長会	事務局長	喜久村　敏夫	
	委　員	沖縄県町村会	事務局長	盛根　良一	
	委　員	(社) 沖縄県緑化推進委員会	常務理事	上地　豪	
	委　員	沖縄県商工会連合会	事務局長	仲尾清和	
	委　員	沖縄県商工会議所連合会	事務局長	渡久地英男	
	委　員	沖縄県婦人連合会	副会長	小渡ハル子	
	委　員	沖縄県青年団協議会	会長	伊佐　強	
	委　員	(社) 日本青年会議所沖縄地区協議会	運営専務	仲地　一	
	委　員	沖縄県教育委員会	教育次長	宮城嗣三	
	委　員	沖縄県土木建築部	次長	安慶名　正行	
	委　員	沖縄県農林水産部	次長	友利昭之助	
	委　員	沖縄県商工労働部観光リゾート局	次長	金城秀雄	
	委　員	沖縄県企画開発部地域・離島振興局	次長	又吉春三	

10　世界のウチナーンチュ大会記念表彰規程

（目的）

第１条　本表彰は、在住国において教育、文化、体育・スポーツ、社会福祉、産業経済等に貢献のあった者や県系人社会の福祉の向上に功績があった者等についてこれを顕彰することを目的とする。

（表彰者）

第２条　表彰は、知事が行う。

（表彰の対象）

第３条　表彰は、次の各号の一に該当するもので特に顕著な功績があると認められる者に対して行う。

（１）移住者の生活・福祉の向上及び県系人社会の発展に貢献した者

（２）在住国の発展に尽力することにより県系人の社会的地位の向上に貢献した者

（３）沖縄県の振興に貢献した者

（表彰の分野）

第４条　表彰の部門は次のとおりとする。

（１）教育

（２）文化

（３）体育・スポーツ

（４）社会福祉

（５）産業経済

（６）政治・行政

（７）一般篤行

（表彰の方法）

第５条　表彰は、表彰状及び記念品を授与して行う。

（表彰の期日）

第６条　表彰は、世界のウチナーンチュ大会開会式において行う。

（表彰の推薦）

第７条　次の者に推薦を依頼する。

（１）海外の県人会及び県人会に相当する団体

（２）海外の日系人協会

（３）海外の日系マスコミ

（４）沖縄県議会

（５）県内市町村

（６）国際交流団体（各国県人会等との交流連絡の窓口）

（７）県内女性団体

（８）県内マスコミ

（表彰の決定）

第８条　知事は、前条の規定により推薦された者、その他推薦にふさわしいと認められる者のうちから被表彰者の決定を行う。

２　知事は、前項の被表彰者の決定を行うに当たり、あらかじめ第９条に規定する選考審査会の議を経るものとする。

３　知事は、第１条の規定により被表彰者を決定した場合は、その氏名及び表彰の理由を公表するものとする。

（選考審査会）

第９条　第７条及び第８条の規定により推薦された者の業績、功績等に対し審議するため、選考審査会を置く。

（補則）

第10条　この規程に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。